

# CSR Report 2005



# 「市民に愛され市民に貢献する」

シチズンは世界の人々の暮らしに広く貢献します

## 編集方針

シチズンでは2000年以来、「環境報告書」や「環境社会報告書」にて毎年環境面および社会面に関する取り組みを報告してまいりましたが、本年より「CSR報告書」として環境面を含めたCSRにかかわるシチズンの考え方と取り組みについて報告することといたしました。

「CSR報告書」の作成に当たりましては、さまざまなCSRの取り組みをそのままお伝えすることによってありのままのシチズンの姿を知っていただくことを心掛けました。

ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを通じて、CSRの取り組みを向上していきたいと考えております。

## 対象範囲

**経済データ**：シチズン時計(株)、国内外シチズングループ(計57社)  
**環境データ**：シチズン時計(株)、国内シチズングループ(計19社)及び海外5拠点  
**社会データ**：シチズン時計(株)  
**記述情報**：シチズン時計(株)、国内外シチズングループ(計57社)  
\*2004年10月のシチズン商事(株)とシチズン時計(株)の合併に伴い、2004年度のシチズン商事(株)のデータをシチズン時計(株)に含めて記載しています。

## 対象期間

2004年度(2004年4月1日—2005年3月31日)  
ただし、一部活動については2005年度の内容も含まれます。



## 参考にしたガイドライン

「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」(環境省)  
 「サステナビリティリポーティングガイドライン2002」(GRI)  
 「環境会計ガイドライン(2002年版)」(環境省)

## 主な関連公表資料

決算短信  
 アニュアルレポート  
 有価証券報告書  
 ホームページURL  
<http://www.citizen.co.jp/>

編集方針・対象範囲・対象期間	1	
<b>トップコミットメント</b>	3	コミットメント
時計づくりのDNA	5	
<b>活動ハイライト</b>	7	時計づくりのDNA
<b>ビジョン</b>		
シチズンのCSR	9	活動ハイライト
コーポレートガバナンス	11	
CSR体制	12	
環境社会ビジョン	13	
シチズンのモノづくり	14	
<b>経済</b>		ビジョン
会社概要及び経済的側面	15	
<b>環境</b>		経済
環境マネジメント	17	
環境中長期計画	19	
事業活動と環境負荷	21	
製品での取り組み	23	
地球温暖化防止	26	
廃棄物リサイクルと有害化学物質削減の取り組み	27	
環境会計	28	環境
<b>社会</b>		
お客さま	29	社会
お取引先/株主	31	
従業員	32	
地域社会	35	
第三者意見	37	
あゆみ/編集後記	38	

トップコミットメント

# 社会から信頼され続ける シチズングループであるために

創立75周年。企業理念を表す「シチズン」の社名を再認識し、社会的責任を継続的に果たし、持続する企業を実現していきます。



■シチズン時計株式会社 代表取締役社長

梅原 誠

ドイツ子会社にて販売・サービス・製造を担当した後、1993年に精機事業担当取締役就任。1998年常務取締役、2000年所沢事業所所長を経て2002年より現職。

## シチズンの社名が意味するもの

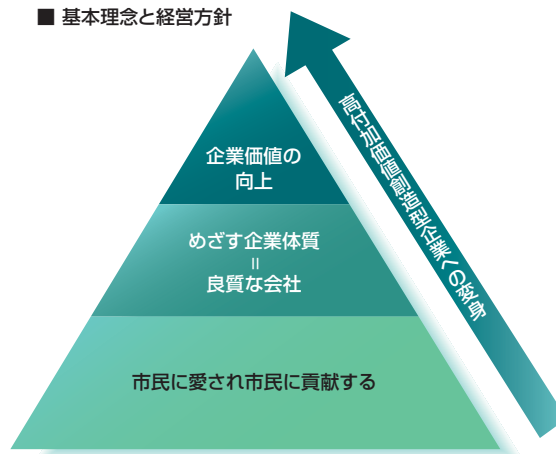
「市民に愛され市民に貢献する」という企業理念そのものの社名を掲げて、シチズンは日々地道な企業努力を重ねてまいりました。そこに謳われている市民とはソサイアティ、ひいてはすべてのステークホルダーをも意味します。そして、市民に支えられ、市民に貢献し、市民の中で生きる企業がシチズンの姿であるという意味が、この社名には込められています。

2005年は創立75周年の節目を迎え、その長き道を振り返りつつ、これからの進むべき方向をしっかりと見据え

ているところです。企業の発展には事業の成功により収益をあげることが第一ですが、それだけでは長年の存続はかかないません。信頼と責任と共に、社会において存続価値のある企業であるために、CSRが必要なのです。

昔から「神様が見ている」「お天道さまはお見通し」などの言い方がありました。つまり、CSRという言葉が誕生する以前から、企業として、人として、大切なものは先人たちの歩みにおいてもずっと根付いていたのです。近年、いくつかの企業の不祥事が続いた時、私は遺憾の想いでいっぱいでした。例えば100年の歴史ある会社の信用が一夜

■ 基本理念と経営方針



にして失墜してしまう。当たり前のことを当たり前に行っていれば不祥事は起こらないはずなのに……と。企業は、安全に健全に経済的にも社会的にも継続性を持つべきだとの想いをさらに強くするばかりでした。シチズンでは、グループをあげてCSRを推進しています。

**グループ再編後も、CSRで心を一つに**

シチズンがCSRを推進して3年目に入りました。2004年10月1日にシチズン時計(株)とシチズン商事(株)が合併して新生シチズンがスタートし、2005年4月には会社分割により電子機器事業をシチズン・システムズ(株)に、液晶デバイス事業をシチズン・ディスプレイズ(株)に集約、主要連結会社の完全子会社化などグループ再編による構造改革を進めてきました。

しかし、シチズンの取り組むCSRの趣旨や体制の基本は変わりません。シチズングループとして一体となって、CSRに取り組んでいきたいと考えています。

私の考えるCSRの基本は、「人」です。一人ひとりが、自分を信じ、相手を信じる、という気持ちがあることが大事。自分を理解してほしい、信じてほしいということは、相手を信じ、相手を理解することにつながります。本来、相互信頼の原則があれば、不祥事や不正は発生しないものだと思います。そして、何かの変化や判断に迷ったら、遵法かどうかを諮れる体制も大切です。そのベースとして、「シチズン企業行動憲章」があります。

何事に対してもYESがあればNOもあって、そこで議論し、ぶつかりあうことで、よりよいものに昇華されていきます。例えばCSR委員会の果たす役割も然り。一方的なトップダウンで進めるのではなく、各現場が声を出し合い、意見を戦わせていく、そしてそこから生まれたものを具体的に実行してこそ、机上論ではない、真のCSRなのだと考えます。

一人ひとり従業員が同じ思いでCSRに取り組む、それはまさにシチズングループという大きな和の成長に他なりません。

**次のメッセージは「夢から実現へ」**

私は、従業員に「夢を持ちなさい」とよく話します。CSRに取り組んで3年目となった今、「夢から実現へ」ということが次のステップへのメッセージ。シチズンのめざす今後のベクトルとして、どう大きくなるか、というよりもどんな夢を持ち、どう価値ある企業にしていけるか、を志向した

と考えています。

そのためにも、さまざまな場面や機会を設けてすべてのステークホルダーのニーズをくみ取る工夫をし、経営の中に取り入れていくよう努めていきます。時代は変化のスピードをゆるめず、ニーズはさらに高度化、多様化するばかりです。しかし、私はこれからもシチズンが社会的責任を全うし、持続性のある経営をしていけると自負しています。なぜならば、シチズンには「時計づくりのDNA」が息づいているからです。ミクロの世界を見つめてきた我々は、小さなものに限りない可能性を創造する技術もノウハウも感性も持っているからです。その可能性は、チャレンジという言葉そのもの。守りの姿勢ではなく、積極的に進めていくCSRのあり方こそ、シチズンらしさといえましょう。

ここに、昨年度の環境社会報告書からCSR報告書へとタイトルも新たにして、シチズンのこの1年間のCSR活動の歩みがまとめられました。実際に、昨年度よりもさらに幅広く、活動的にCSRに取り組んできた成果が見られるものになっていると思います。単なるレポートではなく、読まれる、理解される報告書になるよう配慮しております。シチズングループへのいっそうのご理解とご支援をいただけますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 時計づくりのDNA

# 「時計づくりのDNA」は、さまざまな 確実に受け継がれ、新たな可能性

ミクロの世界で独創性と高精度をかなえる技術。そして、企業理念と合致するユーザビリティの発想。ユニバーサルデザインなどの言葉が生まれるずっと前から、シチズンには「人にやさしい」モノづくりの精神があり、脈々と受け継がれてきました。

### ■ LED



もともとはクォーツ時計のICの加工技術がきっかけで取り組んだ分野です。時計の技術を使って効率よく高精度な製品ができたのが、通常のLED製造企業と違うシチズンらしいところ。デジタルカメラ、携帯電話、一般照明などの光源に活用されています。この技術により、さらにいろいろなデバイスをつくることが可能となります。

### ■ 液晶デバイス



70年代から取り組んできたデジタル時計の技術から始まったもの。世の中がどんどん液晶の大型化を志向する中、シチズンは小さいところでいろいろな用途を創造してきました。最近では、高い応用性のメモリー性液晶や、シチズンにしかできないオンリーワンビジネスの液晶光学素子が期待されています。また、より強く美しくという時計の表面処理の観点からメッキ技術にも早くから取り組み、メッキ技術をさらに進化させた乾式メッキ技術で、環境にやさしく強度の高い液晶パネル製作を実現しています。

### ■ 水晶デバイス



クォーツ時計の心臓部に使われている水晶は、今日、マルチメディアの製品に欠かせない水晶デバイスとしてさまざまなところで活用されています。特に、水晶振動子や高性能な水晶発振器は、携帯電話などに使われてパッケージの小型化が進むばかり。時計を見つめてきたシチズンが得意とする小さな世界での挑戦が、ここにもあります。

### ◆お客さまの立場に立つと、常に新しいニーズが発掘されます。

腕時計は、数ある工業製品の中で人の肌に直接つける唯一のものといえましょう。ヒューマンウェアとも呼べるその製品へのきめ細やかな配慮は、「市民に愛され市民に貢献する」企業理念そのもの。例えば、時計ケースや時計バンドに金属が用いられますが、人によってはアレルギーを引き起こす可能性もあります。そこでアレルギーを起こさない金属として医療機関との協力のもと実証を得てチタンに着目し、1972年に世界で初めてチタンを外装材とした時計を開発しました。人肌にやさしい素材としては優れていても見た目はグレーの素材であるチタンをどう加工してデザイン性を高めるか。しかもステンレスよりも軟らかいチタンをどう鏡面処理するか。こうした課題をシチズンの技術によりクリアし、美しい時計に仕上げた実績も築きました。

その後も、電池交換の手間をなくすエコドライブ、メタルバンドのとりはずしがしやすいように両プッシュ中留など、「人にやさしい」ものづくりへのあくなき挑戦を続けています。

精度を極める観点からは、年度差±5秒の年差時計、そして、10万年に1秒の誤差といわれる原子時計に基づく国内標準時刻電波を受信し限りなく正確さを実現した電波時計という画期的な製品を実現してきています。

ただ単に美しい時計をつくる技術ではなく、長く美しいまま快適に使える技術、究極のメンテナンスフリー……それがシチズンのめざす技術です。

# カテゴリでも を実現しています。



## ◆21世紀のシチズンのコンセプト 「マイクロ ヒューマンテック」

時計づくりはマイクロの世界。部品の基本単位は1000分の1mm。その世界で性能、機能、美などを追究し続けるシチズンの強みは、「小さい分野に強い」ことともいえます。時計づくりのDNAは、情報・電子機器、産業用機械などにも世界を駆け、新たなシチズンらしさを発揮しています。

そして、21世紀におけるシチズンのキーワードとして「マイクロ ヒューマンテック」を掲げています。マイクロ=時計産業で培ってきた本質にこだわり、小型・精密のニーズに応える。ヒューマン=人と地球の共生をめざす技術開発と共に、市民に愛される製品づくりにより世界の人々の暮らしに貢献する。テック=シチズンならではの技術をシンプルで洗練された美しいデザインと融合させ、魅力ある商品を創造する。このマイクロ ヒューマンテックのコンセプトにより、さらに信頼される製品やサービスを創造していきます。

20年間さらさらなオイルを開発／▶▶▶P.25  
 日刊工業新聞ものづくり大賞受賞（2005年3月）

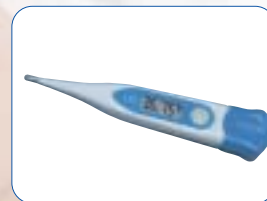
エコドライブ腕時計により電池交換不要となっても、メンテナンスフリーの課題として潤滑油の劣化がありました。長年の使用においては、どうしても乾燥したり水分を吸って固まったり、という状況が生じやすく、油の交換が必要でした。そこで、20年間交換不要の潤滑油として開発されたのがAOオイル。究極のメンテナンスフリーへまた1歩前進しました。

### ■ 産業用機械



創業以来「いかに精密に」を極めてきた時計技術をコアとして、精密加工に強い技術、複雑な部品を正確にスピーディーに組み立てる技術を培ってきました。さらに、「高機能高生産化」「超小径化」「超高精度化」を機軸としたCNC自動旋盤を生み出し、広く国内外に提供しています。同様に、「正確なものをつくるために正確に測る」ニーズを支える計測器分野も発展し、リニアエンコーダーも手がけてきています。

### ■ 情報機器・健康機器



時計によって培われた精密小型技術から生まれた小型プリンタは、多くのPOSシステムや記録電卓に、また大型プリンタは高信頼性から中国で徴税システムに採用されています。また時計の高精度な温度補償センサー技術から生まれた体温計を応用し、振動モータと組み合わせ、ブザー音が聞き取りにくい方にも安心な振動体温計を開発しています。「小型」「精密」「低消費電力」を合言葉に、常に、信頼性の高いモノづくりをめざしています。

# 2004年度活動トピックス



GC参加表明の受理を伝える  
国連からのレター

## 国連「グローバル・コンパクト (The Global Compact:GC)」に参加

スイスで開催された世界経済フォーラム（1999年1月）において、国連のアナン事務総長によって提唱されたGCは、参加する企業が「人権・労働・環境・腐敗防止」に関する10原則を企業活動の中に取り入れ、市民社会の一員としての役割を積極的に果たしていくことを自発的イニシアチブとして誓うもの。シチズンはCSRへの取り組みが3年目に入ったのを機に、GCへ参加を表明し、2005年4月に国連に受理されました。

### 「グローバル・コンパクト」の10原則

#### 人権

1. 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
2. 人権侵害に加担しない。

#### 労働

3. 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
4. あらゆる形態の強制労働を排除する。
5. 児童労働を実効的に廃止する。
6. 雇用と職業に関する差別を撤廃する。

#### 環境

7. 環境問題の予防的なアプローチを支持する。
8. 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
9. 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。

#### 腐敗防止

10. 強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

## グループ戦略本部を設立 >>> P.11

2004年10月1日、シチズン時計の社長を本部長とした「グループ戦略本部」を設立しました。財務戦略、開発戦略、知的財産・ブランド戦略、人事戦略の各項目ごとにグループ内の執行責任と権限を本部長から委任された責任者をおく体制です。戦略項目は、今後も必要に応じて追加していきます。

## 女性用電波時計の製品化に成功 >>> P.14

あくなきチャレンジにより技術の壁を超えて、プラスチックケースからフルメタルケースへ、お客さま満足度の高い究極の時計として製品化された電波時計。さらなる小型化で女性用電波時計も3年がかりで開発、製品化に成功しました。







## 高付加価値で環境配慮型ムーブメント ▶▶ P.25 「スーパー 2035」を開発

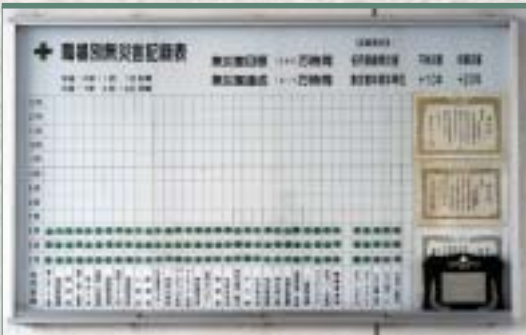
アナログ時計の世界シェア No.1 を誇るムーブメント「キャリバー 2035」を、より環境配慮型に開発し「スーパー 2035」として製品化しました。業界初の無水銀電池、独自の低消費電化技術など、シチズンならではの高技術の結集です。

## 個人情報保護法に対応 ▶▶ P.30

2005年4月に施行された個人情報保護法に対処するため、シチズンでは2004年10月1日に個人情報保護対策委員会を設置してプライバシーポリシーを策定しました。お客さまへの告知、従業員教育の徹底により、遵法を徹底しています。



お客様の個人情報の  
取り扱いについて



## 無災害記録時間を継続中 ▶▶ P.34

シチズン時計・東京事業所では、2004年8月24日に厚生労働省が定める第二種無災害記録を達成し、現在12,723,275時間の記録を継続中です(2005年8月15日現在)。一日一日の地道な積み重ねによる記録です。

## 2004年度シチズン・オブ・ザ・イヤー ▶▶ P.35

15回目のシチズン・オブ・ザ・イヤーには、次の3組の受賞者が決まりました。

- 30年間里親として60人を越える子どもを育ててきた永井様ご夫妻
- 台風による増水に遭遇しバスの屋上で励まし合って生還した、兵庫県市町村職員年金者連盟豊岡支部有志
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の中にある大峯奥駈道を20年間整備してきた新宮山彦ぐるーぷ



# シチズンのCSR

シチズンは企業理念と行動憲章に沿ったCSR活動を推進し、社会の持続可能な発展に貢献する「良質な会社」をめざしています。

## 企業理念

シチズンの掲げる企業理念「市民に愛され市民に貢献する」とは、「市民に愛され親しまれるモノづくり」を通じて世界の人々の暮らしに広く貢献すること。これはもともとCSR的な考えを含んでおり、今日のCSRへの取り組みによって、いっそう企業理念の具現化を推進するものです。

## シチズンのCSR

シチズンが企業理念を実現していくためには、誠実な企業活動を通して社会から受け入れられ、信頼される企業であることが重要な基盤となります。それには、あらゆる面で「良質な会社」であることが求められ、シチズン、グループ会社、サプライヤーも含めて、CSRに取り組んでいかなくはなりません。そこにかかわる一人ひとりが正しい倫理観を持ち、透明性が高くかつ自由闊達な組織体と企業風土をつくることをめざしています。さらに、環境保全、社会との共生、といった企業市民としての役割も積極的に果たしていきます。

シチズンは、CSR活動により世界中でいつまでも市民に愛され、信頼され、持続可能な社会の発展に貢献できる企業であり続けたいと願っています。

「シチズン企業行動憲章」は、CSR活動のバックボーンとなっています。シチズンがどうあるべきか、シチズンブランドをどう発展させていくべきか、の意識を共有する拠りどころの役割も果たしています。



シチズン企業行動憲章の冊子と携帯カードをシチズン時計の全従業員に配布し、CSRの推進に努めています。

## シチズン企業行動憲章

わたしたちは、あらゆる法令、社内規則を守り、企業行動憲章に従って行動します。

シチズンは、「市民に愛され市民に貢献する」企業理念のもと、

1. 安全と品質に十分配慮した製品とサービスを顧客に提供します。
2. 商取引においては、公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
3. 企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、適切な情報管理を行います。
4. 地球環境を大切に、環境方針に従って行動します。
5. 良き企業市民として、地域社会との共生を大切に、社会貢献活動に努めます。
6. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の能力、活力を引き出し、人格、個性を尊重します。
7. 反社会的勢力及び団体には、毅然たる態度で対応します。
8. 海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めます。

2003年10月23日制定

この企業行動憲章を遵守するために、会社と従業員は、不断の努力を行います。万一、本憲章に反するような事態が発生したときは、会社は自ら問題解決と再発防止にあたり、社会に対して適切な報告を行います。また、権限と責任を明確化した上で厳正な処分を行います。

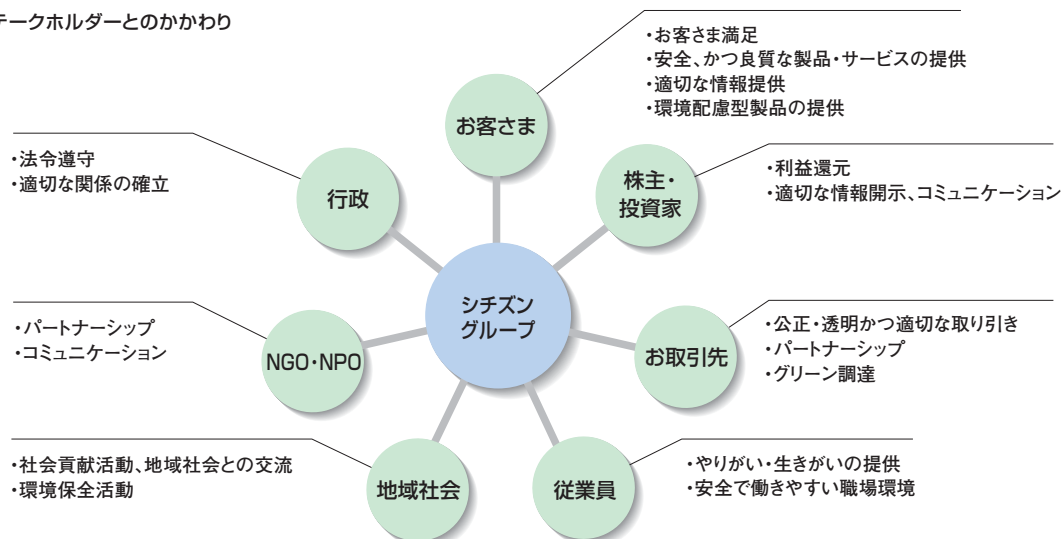


## ステークホルダーとのかかわり

事業活動において、さまざまなステークホルダー(利害関係者)との良好な信頼関係が重要です。ステークホルダーとは、シチズンを支えてくださっている方々ともいえ、つまり、シチズンは多くのステークホルダーからの信頼によ

て事業を営んでいるのです。こうした位置づけをしっかりと把握し、誠実な姿勢で、相手を思いやる心をもって取り組んでいくよう努めています。

### ■ ステークホルダーとのかかわり



CSR室

室長 中嶋 康雄

### グループ全体でCSRの輪を広げます

シチズン時計は、2004年1月1日にシチズン企業行動憲章を施行し、CSRの取り組みを開始しました。そして2005年度には、国内外のシチズングループ全体でも、シチズンの企業行動憲章の理念に従った上で、各社独自の行動憲章を事業特性、企業風土、歴史、地域特性、慣習などに従って施行し、CSRの輪を広げてきています。

CSRの取り組みは、シチズンにかかわる一人ひとりの心かけ、日々事業に取り組む姿勢に求められることです。その意味で、愚直で地味ともいえるシチズンの企業風土は、一脈、CSRの求めるところと通じるところがあるように思います。

私たちが仕事に対する誇りと満足感を感じ、自己研鑽に励むなかで「良質な会社」をめざし「市民に愛され市民に貢献す

る」というシチズンの企業理念を日々の業務の中で自然に実践することができれば、一人ひとりがシチズンの企業価値を向上させるチャンスが生まれてきます。まさに、それがCSRを実践する意義といえます。

また仕事は組織でする部分がとても大切です。良好なチームワークは気持ちのよい、風通しのよい社風をつくってくれるはず。このことは、各職場で行っていることが正しいかどうかというお互いの気づきと、それを感じるコンプライアンスの感性を、自然と職場で共有することにもつながります。いずれにしても、人への思いやりといった誠実性はCSRの原点とも言えます。

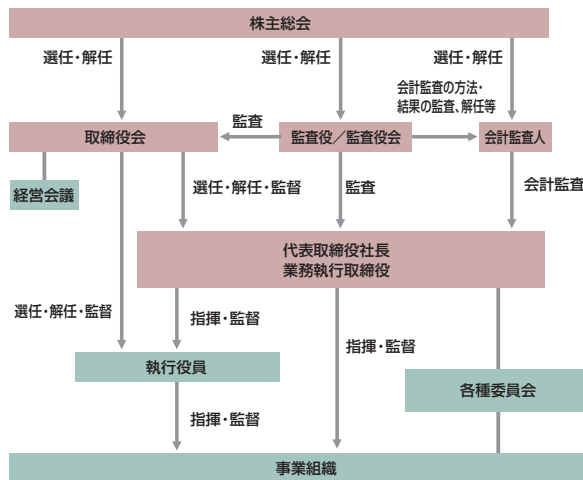
# コーポレートガバナンス

シチズンでは、コーポレートガバナンス(=企業統治)を、経営の執行と監督のチェック機能を高め、透明性のあるガバナンスに基づいて経営資源を最大限に活用し、最大の力を発揮するための仕組みであると考えています。グループの求心力を高めていくための新たな取り組みも進めています。

## ガバナンス体制

シチズン時計は、取締役全員で構成される取締役会が経営に関する重要な決定及び取締役の職務執行の監督を行い、効率的かつ健全な企業経営に努めています。また、監査役制度を採用し、2名の社外監査役を含む監査役4名全員で構成される監査役会において定めた監査の方針や監査計画などに基づき、各監査役が取締役の職務執行の厳正な監査を実施しています。

### ■ シチズン時計株式会社 コーポレートガバナンス



・ 〓は商法の規定に基づく機関等  
 ・ 取締役 10名 ・ 監査役 4名(常勤監査役3名、社外監査役2名)  
 (2005年6月末現在)

## グループ事業再編と完全子会社化

シチズンは、かつて「偉大なる中小企業集団たれ」といわれたように、グループ各社は、それぞれに独自性、主体性、独立独歩の精神を育てて成長してきました。この企業文化は、脈々とシチズングループの中に息づいています。しかしながら、市場変化の激しい環境の中で、グループとしての連帯感をさらに強化しています。2002年度には精機事業、2004年度には水晶事業をそれぞれ集約しました。また2004年度にはシチズン時計とシチズン商事の合併、そして2005年4月には液晶事業、電子機器事業の統合をそれぞれ行ないました。こうした垂直統合によるグループ事業再編は、各事業の責任と権限を明確にした上で、運営をまかせることによって経営判断の迅速化を図る

など、事業分野の経営体質の強化を可能にします。

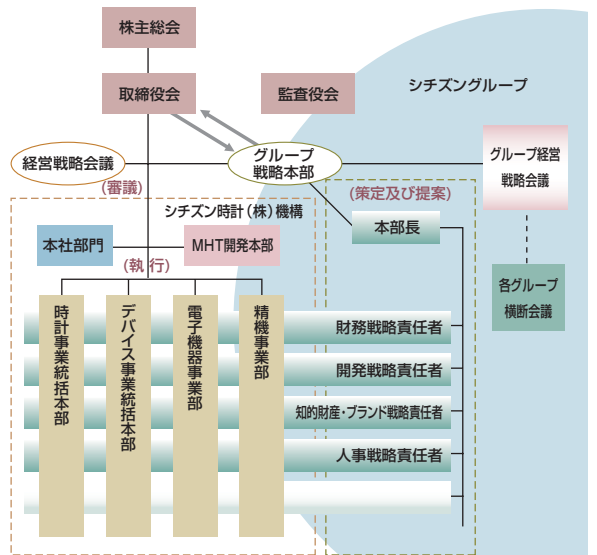
さらに、主要連結子会社(シチズン電子、シチズンミヨタ、シチズンファインテック、シチズンセイミツ、狭山精密工業)の完全子会社化により、コーポレートガバナンスの強化とグループ企業価値の最大化をめざします。

## グループ戦略本部

シチズングループでは、グループとしてのシナジー効果を常に意識した企業運営を心がけています。そこには、財務の効率化、開発力の強化、知的財産やブランド戦略の共有化、グループ全体の人材の適正配置などグループとして取り組まなくてはならない横断的な重要課題が伴います。また、垂直統合により事業分野ごとの経営効率は向上が期待されますが、各事業の連携やグループの連帯が薄れる懸念も生じます。

そこで、横断的な課題への対応やグループ力を高めていくための体制として、2004年10月1日、シチズン時計の社長を本部長とした「グループ戦略本部」を設立しました。それは、財務戦略、開発戦略、知的財産・ブランド戦略、人事戦略の戦略項目ごとにグループ内の執行責任と権限を本部長から委任された責任者をおく体制です。戦略項目は、今後も必要に応じて追加していきます。

### ■ グループ戦略本部の位置付け(略図)



# CSR体制

シチズンのめざすCSRとは、すべてのステークホルダーに対して地道に積み重ねていくもの。草の根的にCSRを推進できる体制の活用や教育を行い、CSR1年目より2年目の2004年度はさらにCSR体制が整ってきました。

## PDCAによるCSR推進

シチズンでは、月1回開催しているCSR委員会でさまざまなテーマを取り上げ、取り組んでいます。社員から派遣スタッフに至るまでCSR研修を行い、社内報『シチズンライフ』でも毎号CSRについての企画記事を掲載し、CSRへの啓発を促進しています。毎年4月には従業員に対してCSRに関するアンケートを実施していますが、2004年度より2005年度と、CSRへの取り組みの意欲や期待が向上している結果が出ています。

各部門は企業行動憲章にのっとり、「CSR部門別実践目標」を設定しています。2004年度は、各部門がそれぞれに「自己リスク評価」を行った上で目標設定を行いました。年度末(2005年3月)に、それらの目標に対する実績結果について各部門が自己評価を行い、それをCSR委員会にて総括いたしました。2005年度の目標は、より定量的で具体性をもたせるとともにCSRの課題を積極的に取り上げる挑戦的なものとなりました。さらに、各担当部門の枠にとらわれず会社全体を見渡したCSRの課題を目標に掲げ、PDCA (PLAN→DO→CHECK→ACTION) を回していきます。

また、グループとしては、共有の理念を図っていくため、各社のCSR責任者が集まるシチズングループCSR連絡会を年2回開催しています。各社のCSRの取り組みはシチズン企業行動憲章を基本にしつつも、各社の地域性、企業風土、事業特性などを加えた独自の考えも組み入れています。

## コンプライアンス

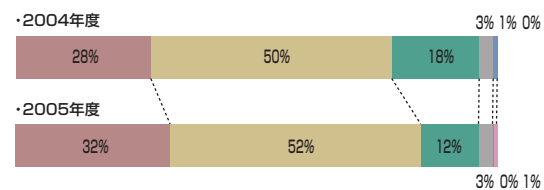
CSRの最も基本になる部分の一つが、コンプライアンス(=法令遵守)です。シチズンでは、法令に加え、社会規範、企業倫理、社内規則などコンプライアンスの対象を広くとらえ、従業員へも教育しています。また、コンプライアンス違反の発生を予防するため、社内通報制度を設置し、その社内通報制度を次のように説明しています。

「私たちの行動が、万一、法令や社内規則あるいはこの企業行動憲章に反していると思われる場合は、ただちに、上司に相談してください。また、上司に話しにくい場合は、企業倫理相談窓口(ホットライン)に連絡してください。相談窓口はCSR委員会を開くとともに、案件を調査し、必要と判断された場合は、適切な対応をとるよう経営トップに報告します。その場合、通報者の秘密は厳守されること、通報したことにより通報者に不利益な処遇がなされないことを会社は保証します。」  
(「シチズン企業行動憲章運用体制」説明より)

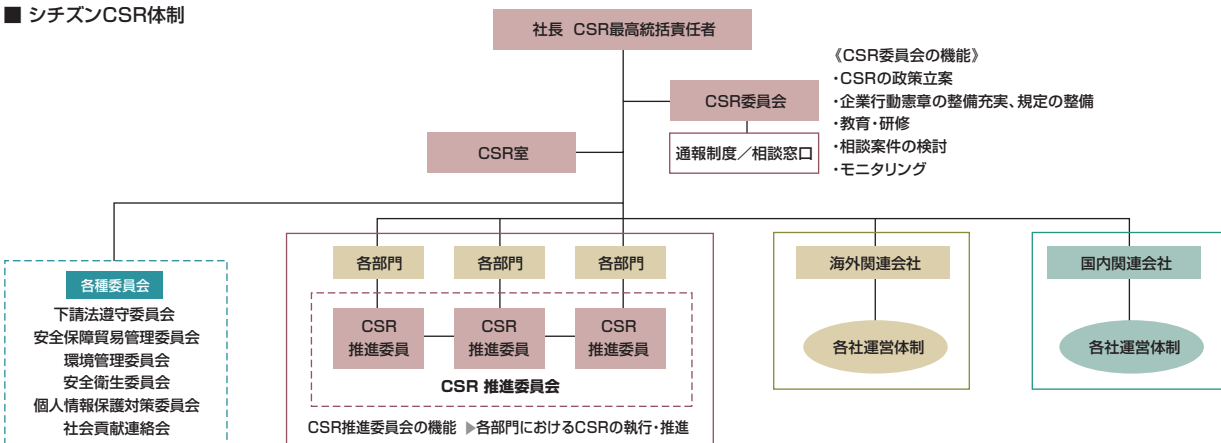
### ■ シチズン時計従業員へのCSRアンケート結果(一部抜粋)

問. CSRに取り組むことにより会社が更に良くなると思いますか?

■ 必ず良くなると思う ■ たぶん良くなると思う ■ わからない ■ 変わらない  
■ 悪くなる ■ 無回答



### ■ シチズンCSR体制



# 環境社会ビジョン

持続可能な社会のために、そして、これからの地球環境のために、シチズンはどのような活動を行うべきか——その方向を定めるシチズン環境社会ビジョン(2025)を策定し、企業の社会的責任を果たしていきます。

**シチズン環境社会ビジョン (2025)**

シチズンは  
『市民に愛され、親しまれるモノづくり』  
という理念に基づき、  
人々が心豊かに安心して暮らせる  
持続可能な市民社会に貢献します。  
シチズンは“一番近く”で  
地球と人にやさしい製品をお届けします。

2004年7月20日策定

## シチズン環境社会ビジョンについて

シチズンは、お客さま、株主、地域社会、従業員などのすべての人々を「市民」として位置づけ、人々の身近にあって役に立ち、人にやさしく、人間らしさを尊ぶ製品を提供し続けていきます。常にマイクロ ヒューマンテックを基本として、研究開発・調達・生産・販売に真摯に取り組み、社会的使命を果たす企業活動により、世界の人々の豊かな未来に貢献するものです。

企業の存在と活動において必須要件である環境問題にも、その意義と重要性を認識し、自主的かつ積極的に取り組んでいきます。シチズンの生み出す製品がすべて環境配慮型製品であること、世界の工場はすべて廃棄物ゼロエミッションであること、この2つを20年後までの目標に描いています。

シチズンは循環型社会の一員として、企業の社会的責任を果たしていきます。

## シチズンの環境社会ビジョンをまさに実践した商品が「エコ・ドライブ」です。

クォーツ時計の宿命であるバッテリー切れの不安や電池交換のわずらわしさ、これを解消したのが、ソーラーセルで光を受けて発電し、2次電池に蓄えた電力で駆動するシチズンのエコ・ドライブです。

エコ・ドライブは、1996年にはウォッチとして初めて「エコマーク」の認定を受けています。シチズンでは、このエコ・ドライブをシチズンブランドウォッチの中核と位置づけ、ソーラーセル実装技術の改良やいっそうの省電力化に力を注いでいます。

電池交換なしで長く使用いただけるエコ・ドライブは、持続可能な社会づくりに貢献できるシチズンの誇れる商品群の一つです。



文字板の裏に組み込まれた「ソーラーセル」に光があたると電気が発生し、そのエネルギーを二次電池に蓄え、時計の動力源にしています。太陽光だけでなく、蛍光灯などのわずかな光でも発電し、自然な状態で文字板に光があたっていれば、ほとんど止まる心配はありません。

# シチズンのモノづくり

大量生産大量消費からクオリティ オブ ライフへとニーズが変わった今日、再び、本物の価値が問われてきています。シチズンがあくなき挑戦を続けてきたモノづくりの歴史から熟成した匠の技は、さらに未来へと芽を出しています。

## 匠の継承

### ■ マイスター制度

匠の技が師匠から弟子へ継承されていくように、シチズンも技術の継承を大切に考え、一人ひとりの技術の評価を明確化した技能検定制度を設けています。やる気を促すために技能をランクづけ、研修、検定により各自の着実なレベルアップを図ります。最高ランクの時計組み立てマイスターは、いわば師匠。お客さまに最高の製品をつくるだけでなく、時計学校でも講師として次代に技術を継承していきます。



時計組み立てマイスター

### ■ 時計学校

事業部ごとに行っていた社員教育を関連会社も含めて「時計学校」に集約する新しい人材育成及び教育体系を立案し、2005年度より具体的活動に入り、さらに発展をめざしています。オリジナルのカリキュラムとテキスト、社内検定職種の拡充と実施、技能検定及び公的資格取得推進が特徴で、OJTとともに多能工の育成、技能継承を目標としています。もちろん、シチズンの真髄である時計づくりのDNAも確実に受け継がれていくものです。

## 新しい技術への挑戦

### ■ 電波時計

電波送信所から送出された時刻情報をキャッチし、自動的に時刻を合わせる仕組みにより、誤差は10万年に1秒という究極の時計が「電波時計」です。シチズンがこの製品化に国内で初めて成功したのは1993年のことでした。

その後、電波を受信するインフラの未整備など、開発の壁が次々と現れました。外づけだったアンテナを内蔵化してほしい、電波を通しやすいセラミックやプラスチック素材では厚みがありすぎる、もっと薄く高級感のあるデザインがほしい…お客さまからの要望の声もさまざまでした。それらに対応できる技術開発に取り組み、美と機能をさらに極め、現在では電池交換が不要な太陽電池を採用し、フルメタルケース、ケース総厚7.1mmという機能性デザ

イン性ともにハイレベルの製品となっています。

さらには、アンテナや受信回路を搭載するため小型化はむずかしいとされた壁を乗り越えて、女性用電波時計の製品化も実現しました。

### ■ 未来への挑戦

開発の現場では、次代へのメッセージを製品という形に結実するべく、新しいニーズの発掘から顧客満足までをとらえたモノづくりの体制が熱く稼働しています。

「未来の時計とは何か」を研究テーマとしているNW事業推進部では、2001年に日本IBMとの共同開発により腕時計型コンピュータ「ウオッチパッド」を試作し、腕時計の新しい可能性を生み出した実績があります。現在は、携帯電話との連動による新製品を開発中で、東京造形大学の学生のアイデアを取り入れるなど、用途の開拓に注力しています。

## 生産ラインのマイクロ化への挑戦

「小さいものをつくるのに、なぜ、あんなに大きな装置がいるのだろうか？」そのシンプルな疑問から今までの常識をはるかに打ち破る生産組み立てラインの超小型化実現に向けての取り組みが始まっています。



それは、一つひとつの装置を超小型化し、またその装置をユニット化することで簡単に結合・組み合わせをし、必要な生産ラインを短時間で作ることを意味します。各工程の超小型化・ユニット化ができることで、ごく限られたスペースに、集約された一貫生産が可能な小さな生産ラインができ、これによってお客さまが希望する商品を思いを込めて、スピードを上げて作ることが可能になると考えています。

私たちは、この革新的な生産システムを社内の共通の合言葉、「マイクロライン」とよびあってその実現にむけて挑戦を続けています。ゆくゆくは、この考え方を、部品加工にまで広げていくことにも挑戦したいと考えています。

# 会社概要及び経済的側面

シチズンの持続的発展と成長を支える基盤は、健全な財務体質と安定した利益構造です。

## 会社概要

社名	シチズン時計株式会社	本社	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12 TEL(0424)66-1231(代表) FAX(0424)66-1280
創立	1930年5月28日	東京事業所	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12 TEL(0424)61-1211(代表) FAX(0424)68-4756
代表者	代表取締役社長 梅原 誠	所沢事業所	〒359-8511 埼玉県所沢市下富840 TEL(04)2942-6271(代表) FAX(04)2942-6241
資本金	326億4,889万円[2005年3月31日現在]	東京営業センター	〒164-8726 東京都中野区本町1-32-8 ハーモニータワー(12階・13階) TEL(03)5354-1900(代表) FAX(03)5354-1919
上場	東京証券取引所第一部		
事業領域	時計事業／情報・電子機器事業／ 産業用機械事業／その他の事業		
延床面積	89,071m <sup>2</sup>		
敷地面積	63,931m <sup>2</sup>		
従業員数	1,621名 [2005年3月31日現在]		
ホームページ	<a href="http://www.citizen.co.jp/">http://www.citizen.co.jp/</a>		

## 事業概況

2005年3月期連結会計年度の業績は、依然として厳しい市場状況の中、売上高は3,572億円(前連結会計年度比4.9%減)と減収となりましたが、利益につきましては営業利益370億円(同4.5%増)、経常利益401億円(同13.4%増)、当期純利益202億円(同3.9%増)といずれも過去最高益を達成しました。

時計事業においては、国内、海外共に電波時計やエコ・ドライブなどの高付加価値製品の販売が好調に進んだものの、ムーブメントの環境変化により減収減益となりました。情報・電子機器事業の内、オプトデバイスでは、主力の携帯電話市場で新規参入などによる競争激化から、部品点数の削減や製品価格の下落が進んだため売上を落としました。液晶デバイスでは、中国の携帯電話在庫問題の影響で大きく減収、水晶デバイスでは、主顧客のデジタル家電を中心に在庫調整が行われ減収したものの、シチズンミヨタとの統合効果を受け増益となりました。産業用機械事業では、持続的に好調な自動車関連に支えられ増収増益を確保しました。

## 中長期の発展

当社は、グループ全体の経営資源の最適化、及び経営の効率化の観点から、主要連結子会社の5社を株式交換によ

り完全子会社化することとしました。今後は個別企業の活力を生かしつつグループとしての総合力を結集し、グループ企業価値の最大化に努めていきます。

また、2004年10月には代表取締役社長を本部長とするグループ戦略本部を設置しました。財務、知財・ブランド、人事、開発の各分野でグループ戦略機能の強化を図っていきます。

これらの施策によるシナジー効果や経営スピードの向上などから、新たな技術、製品、市場の創造へと展開していきます。そして2009年3月期には、売上高5,000億円以上、営業利益率12%以上、ROE10%以上の数値目標を達成すると共に、高付加価値創造型企業への転換をめざします。

## エティベル・サステナビリティ・インデックス

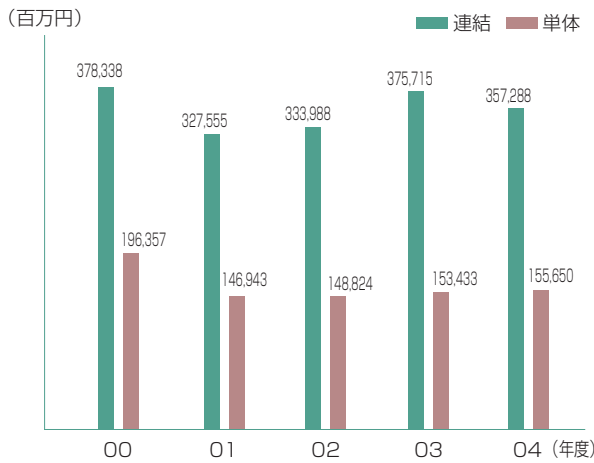
シチズン時計は、ベルギーのSRI(社会的責任投資)評価機関エティベル社により、CSRIに積極的に取り組んでいる企業として「エティベル投資ユニバース(ETHIBEL INVESTMENT REGISTER)」に選ばれました。また持続可能性という視点から、企業株価の総合的な動向を機関投資家等に提供する「エティベル・サステナビリティ・インデックス(ETHIBEL SUSTAINABILITY INDEXES)」にも組み込まれました。



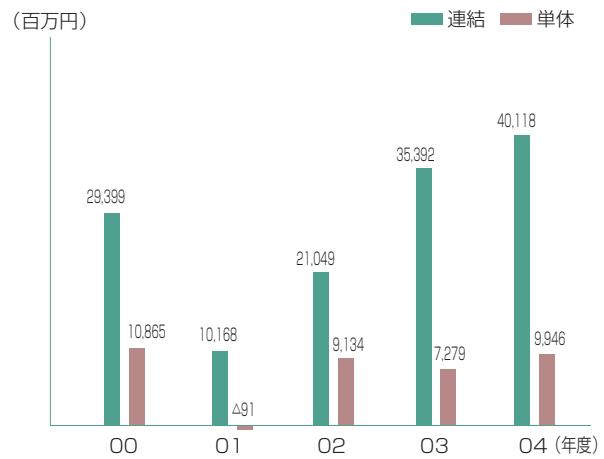




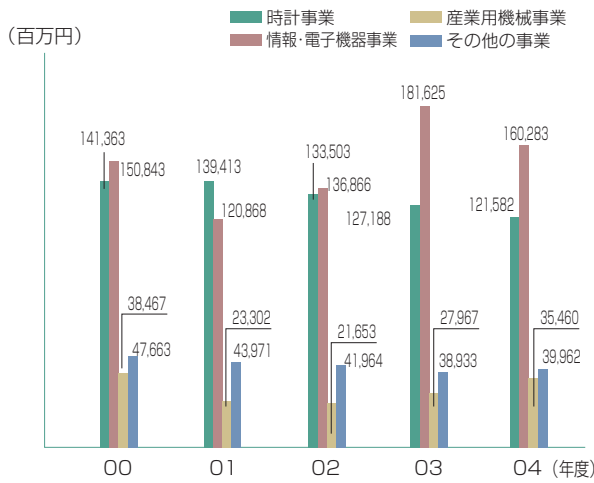
■ 売上高(連結・単体)



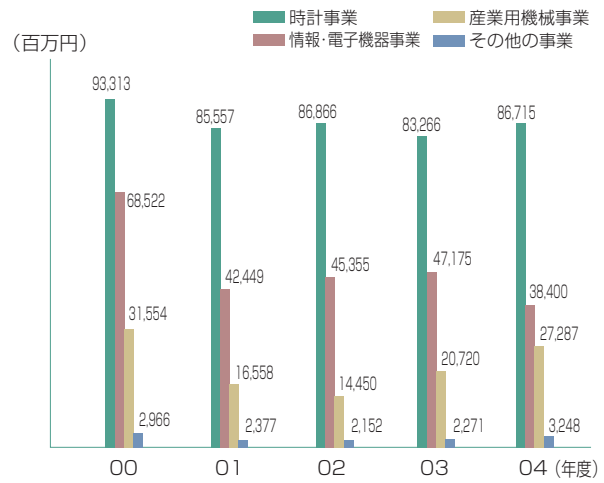
■ 経常利益(連結・単体)



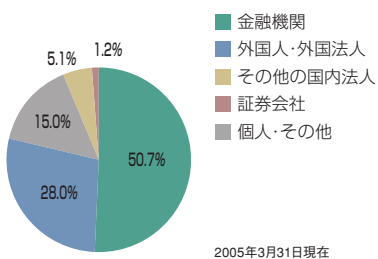
■ 事業別売上高推移(連結)



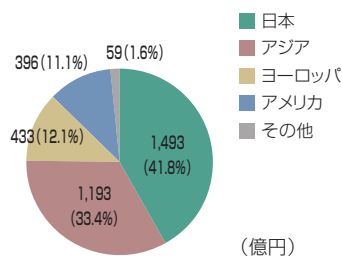
■ 事業別売上高推移(単体)



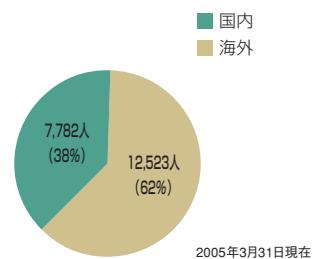
■ 所有者別株式分布



■ 地域別売上高(連結:2004年度)



■ 地域別従業員数(連結)



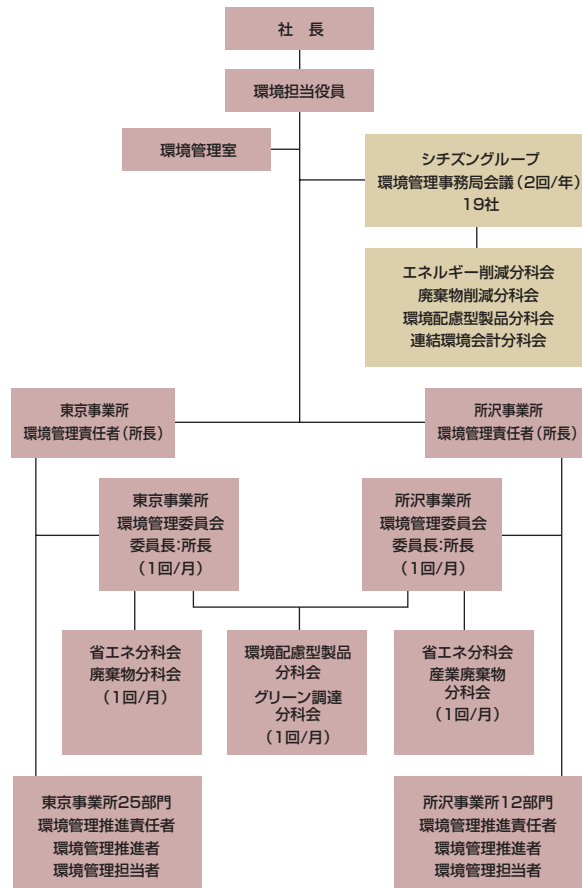
# 環境マネジメント

シチズンは、グループ横断の環境管理体制を築き、効率的な環境への取り組みを強化し、グループ全体での最適化をめざしています。

## シチズングループの環境マネジメント

シチズンは環境管理を効率的かつ的確に行うため、グループ各社と年2回、環境管理事務局会議を行っています。会議では、年度の環境経営方針、課題の検討、各社の活動状況の把握などを行い、テーマごとにグループ横断の分科会を設置して、効率的な取り組みを進めています。2004年度から生産会社2社が新たに加わり、国内19社、海外5拠点の体制となって活動しています。さらに環境マネジメントシステムの導入を他のグループ会社へ進めています。また、重点課題の一つである有害化学物質の削減及び廃止に関しては、海外の生産拠点においても共通の目標を掲げて活動しています。

### ■ 環境管理組織体制



## 環境方針

### 〈基本方針〉

シチズンは「市民に愛され親しまれるモノづくり」という理念に基づき、地球環境と調和した持続的な企業活動を通して、人々が心豊かに安心して暮らせる持続可能な市民社会に貢献します。

### 〈環境行動指針〉

- 1) 時計、産業用機械、情報・電子機器ならびにその部品等の研究・開発・設計・調達・製造・販売の事業活動を進める上で、資源の有効利用と地球環境保全に努め、環境配慮型製品及びサービスを提供します。
- 2) 環境に関わる法令、規制、協定を遵守し、さらに積極的な環境負荷削減の取り組みと汚染の防止に努めます。
- 3) 省資源・省エネルギー・ごみゼロに取り組むことにより環境保全効果と経済効果を生みだし、持続的な事業活動を進めます。
- 4) 環境目的、環境目標を定め、またその見直しを図り、継続的改善に努めます。
- 5) この環境方針は文書により全従業員及び共に働く人々に周知を図ります。
- 6) この環境方針はホームページ、環境報告書等に掲載することにより、一般の人が入手できるようにします。

1998年12月8日 策定 2005年3月15日 改訂

### ■ シチズングループのISO14001認証取得状況

会社名	取得年月
シチズン平和時計株式会社	1998年10月
シチズン時計株式会社	1999年 8月
シチズンマシナリー株式会社	1999年 9月
シチズンミヨタ株式会社	1999年10月
シチズンファインテック株式会社	1999年11月
シチズン電子株式会社	1999年12月
シチズンメカトロニクス株式会社	2001年 4月
シチズン・ディスプレイズ株式会社	2002年 4月
シチズン電子船引株式会社	2003年 5月
シチズン埼玉株式会社	2004年 2月
シチズンセイミツ株式会社	2004年 6月
狭山精密工業株式会社	2004年 9月
シチズン東北株式会社	2004年10月
シチズンTIC株式会社	2004年12月
CROWN YOUNG INDUSTRIES LTD. FDD PLANT	2003年10月
CROWN YOUNG INDUSTRIES LTD. MP PLANT	2004年10月
CITIZEN DE MEXICO S.A. DE C.V.	2005年 1月
CROWN YOUNG INDUSTRIES LTD. LCD PLANT	2005年 2月



## リスクマネジメント

### ■ 土壌汚染対策

東京事業所内のメッキ工場の廃止に伴って建物の取り壊しを行うに当たり、東京都条例に基づき土壌調査を実施しました。工場の作業工程で使用されていた薬品の影響による土壌汚染が見られました。汚染状況はフッ素は2カ所、鉛は1カ所で環境基準の最大1.8倍の超過がありました。3カ所合計77.5m<sup>2</sup>、表面から1m程度の深さに汚染された土壌は、専門業者に依頼して全量掘削してから浄化処理を行い対処しました。

これについては、シチズンホームページで情報開示も行っています。

また解体工事により発生した振動に対する苦情を近隣にお住まいの方から受けました。直ちに説明会を開くと共に、改善策を実施し、ご了解を頂きました。

### ■ 法令遵守

土壌汚染以外の環境関連法規に対する違反及び罰金はありませんでした。

### 環境教育の推進

シチズン時計では従業員全員が環境活動の重要性を認識するためにさまざまな教育を実施しています。

会社としての教育体系に基づく新入社員教育、上級職昇格者研修やミドルマネジメント研修の中で、環境管理に対する教育を行っています。また環境管理室が計画する各部門の環境実務担当者への教育やISO14001の内部監査員養成教育などが毎年行なわれています。

さらに毒劇物や危険物を扱う部門が行う、緊急事態を想定した訓練も各部門の特色を表したものとなっています。

また社内の「ビジネスライセンス制度」も公害防止管理者、エネルギー管理士など環境関係の公的資格の取得をバックアップするものとなって活用されています。

## CITIZEN DE MEXICO S.A.DE C.V.(CDM:メキシコ)の取り組み

CDMは1968年設立と海外生産拠点としては最も早く稼働した歴史ある工場の一つです。時計のケース製造と組み立てを行っています。2005年1月には、ISO14001を認証取得しました。

環境の取り組みとしてはごみの分別活動と自動車の整備による汚染の防止に努めています。

ごみの分別は従来行っていませんでしたが、金属、プラスチック、ガラス、紙、電池、インクカートリッジ、生ごみなど細かい分別を実施しています。

また、駐車場で従業員の乗用車からの油漏れがあることがわかり、修理を呼びかけ、修理していない車は入場できないようにしました。

有機塩素系溶剤についても2005年12月までに全廃を図るため、代替技術の確立や装置の導入準備を行なっています。

現在はCSRについても取り組んでおり、CSR行動憲章を制定し、従業員に浸透を図っています。



CDM



分別状況

# 環境中長期計画

シチズンは、シチズン環境社会ビジョン(2025)を実現するために、環境長期計画2010年度を制定しました。また、2005年度環境中期計画とその実績も合わせて記載しています。環境配慮型製品の拡充に重点を置き、環境管理活動を推進していきます。

## 環境長期計画2010年度

### ■環境経営\*の推進

- 1) グローバルな環境法規制及び潮流への積極的対応
- 2) ステークホルダーとのコミュニケーション及び経営への反映
- 3) 環境経営のグループ会社への展開
- 4) 部門評価に環境対応努力と実績を反映

### ■環境配慮型製品の推進

- 1) 製品の環境負荷低減
  - ① 企画・開発時での配慮
    - ・製品の小型化の促進
    - ・部品の共通化、素材の統一化の強化
    - ・長寿命製品の開発
    - ・LCA\*の活用
  - ② 製品使用時での配慮
    - ・省エネルギー製品開発の促進
    - ・電池交換不要の携帯製品開発の強化
  - ③ 廃棄時での配慮
    - ・製品回収・再資源化の推進
  - ④ 梱包での配慮
    - ・梱包材料のリユースへの取り組み
    - ・梱包材料のマテリアル・リサイクル\*への取り組み
    - ・梱包材料の減量化
- 2) 製品の環境負荷情報の公表

### ■工場における環境配慮の推進

- 1) 資源の有効活用
  - ① 資源の効率活用
  - ② 廃棄物ゼロエミッションの促進
  - ③ 化学物質排出量の削減強化
- 2) 地球温暖化ガスの削減
  - ① CO<sub>2</sub>排出量の削減(2000年度基準で-20%)
  - ② エネルギーシステムの高効率化
- 3) サプライチェーン・マネジメント\*の強化
  - ① 環境及び社会性を含めたサプライチェーンマネジメントの構築
- 4) 環境技術の開発
  - ① グローバルな環境規制に対応する最先端技術の開発
- 5) エコ・オフィスの実現
  - ① 緑地の拡大
  - ② 水資源の節約

### ■エコライフスタイルの啓発・推進 (持続可能な社会への寄与)

- 1) 環境配慮型製品の普及・広報
- 2) 人材育成
  - ① 社員教育体制の整備
- 3) 地域社会とのコミュニケーション
  - ① 行政・地域社会とのコミュニケーションの推進
  - ② 地域イベントへの社員参加の促進

\*環境経営：環境面の課題を経営の重要課題と位置付けた企業経営。

\*LCA：Life Cycle Assessmentの略。製品にかかわる資源の採取から製造、流通、使用、リサイクル、廃棄にいたるすべてのライフサイクルを通じて投入した資源・エネルギーと排出された物質の量を計算し、環境に与える影響を定量的に評価する手法。

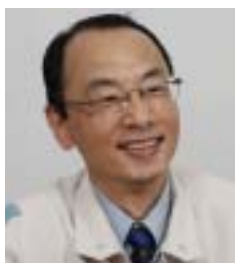
\*マテリアル・リサイクル：廃棄物を製品の原料として再利用すること。それに伴い、リサイクルしやすい製品づくりが求められる。

\*サプライチェーン・マネジメント：取引先との受発注や社内部門の業務を統合管理する経営手法。資材や製品のコスト、納期などの最適管理を目的とする。最近では、取引先にもCSRを求める動きが現れている。

## 2004年度実績と2005年度環境中期計画

○ 達成    △ ほぼ達成  
× 未達成

2004年度 中期計画		2005年度 中期計画の見直し
2004年度目標 (1999年度比)	2004年度実績 (1999年度比) : 評価	2005年度 目標 (1999年度比)
<b>1. 環境配慮型製品の充実</b> 2004年度 環境製品アセスメントの実施 LCAの製品アセスメントへの導入 2005年度 新規環境配慮型製品率 50% シチズンエコラベルの貼付 環境負荷情報の開示	各事業部にて製品アセスメント基準を設定し、品質システムに盛り込み試行し、システムの見直しを行った。 ○  LCAについては基礎技術がほぼ確立できた試行段階。ただし、導入までは至らず。 ×	<b>1. 環境配慮型製品の充実</b> 2005年度 新規環境配慮型製品率 50% シチズンエコラベルの貼付 LCAの製品アセスメントへの導入 環境負荷情報の開示 (LCAデータを含む) 2008年度 新規環境配慮型製品率 100%
<b>2. グリーン調達の実現</b> 取引先へのグリーン調達の展開 グリーン調達情報システムの構築による環境配慮型製品設計への展開	含有禁止物質不使用保証書は99%回収。RoHS全廃計画書は各事業部にて展開中。 ○  グリーン調達システムは構築達成。 ○	<b>2. グリーン調達の実現</b> グリーン調達システムの運用 取引先の評価ランク向上 RoHS対象物質の全廃 調達品の検証方法の確立
<b>3. 環境にやさしい事業活動</b> 1テーマ以上実施	東京:25部門で57テーマ実施 ○ 所沢:8部門で11テーマ実施 ○	<b>3. 環境にやさしい事業活動</b> 1テーマ以上実施
<b>4. 省エネ活動の推進</b> (東京) 電力量削減 2,757万kWh(▲39%) (東京) ガス量削減 2,285千m <sup>3</sup> (▲30%) (所沢) CO <sub>2</sub> (ガス+重油)削減 2,974t-CO <sub>2</sub> (▲8%)	2,719万kWh(▲40%) ○ 2,340千m <sup>3</sup> (▲28%) × 2,919t-CO <sub>2</sub> (▲10%) ○	<b>4. 地球温暖化ガスの削減</b> 1) (東京) 電力量削減 2,720万kWh(▲40%) (東京) ガス量削減 2,343千m <sup>3</sup> (▲28%) (所沢) CO <sub>2</sub> (電力+ガス)削減 10,043t-CO <sub>2</sub> (▲17%) 2) 物流の効率化によるCO <sub>2</sub> 削減 現状調査と目標の設定
<b>5. 廃棄物削減活動の推進</b> (東京) 産業廃棄物の削減 192.8t(▲65%) (所沢) 産業廃棄物の削減 136t(▲20%)	196.3t(▲64%) △ 70.8t(▲58%) ○	維持管理 維持管理



環境管理室  
室長 齋藤 茂

### グループ全体での最適化をめざします

持続可能な社会を実現するためにシチズンがどのような企業であるべきかを方向づけるため、2004年7月にシチズン環境社会ビジョン(2025)を制定し、さらにこのビジョンを実行するために環境長期計画2010年度を策定し、環境活動を行っています。

まず環境方針の「市民に愛され親しまれるモノづくりで市民社会に貢献する」ことを優先課題として、環境配慮型製品基準、化学物質管理基準など制定し、事業部毎に環境アセスメント体制の整備を行ってきました。2005年度は新規環境配慮型

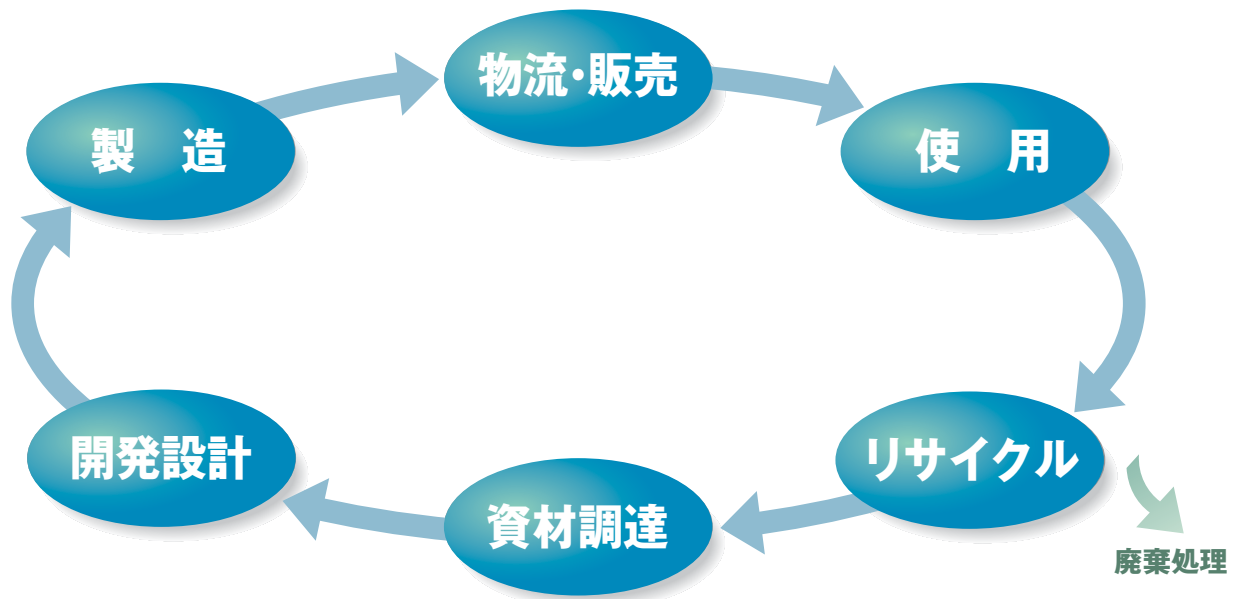
製品率を50%確保することを目標として促進していきます。有害化学物質を含有させないために、グリーン調達のレベルアップを図ります。

また新たに内外含めた物流の効率化によるCO<sub>2</sub>削減について目標設定して取り組んでいきます。

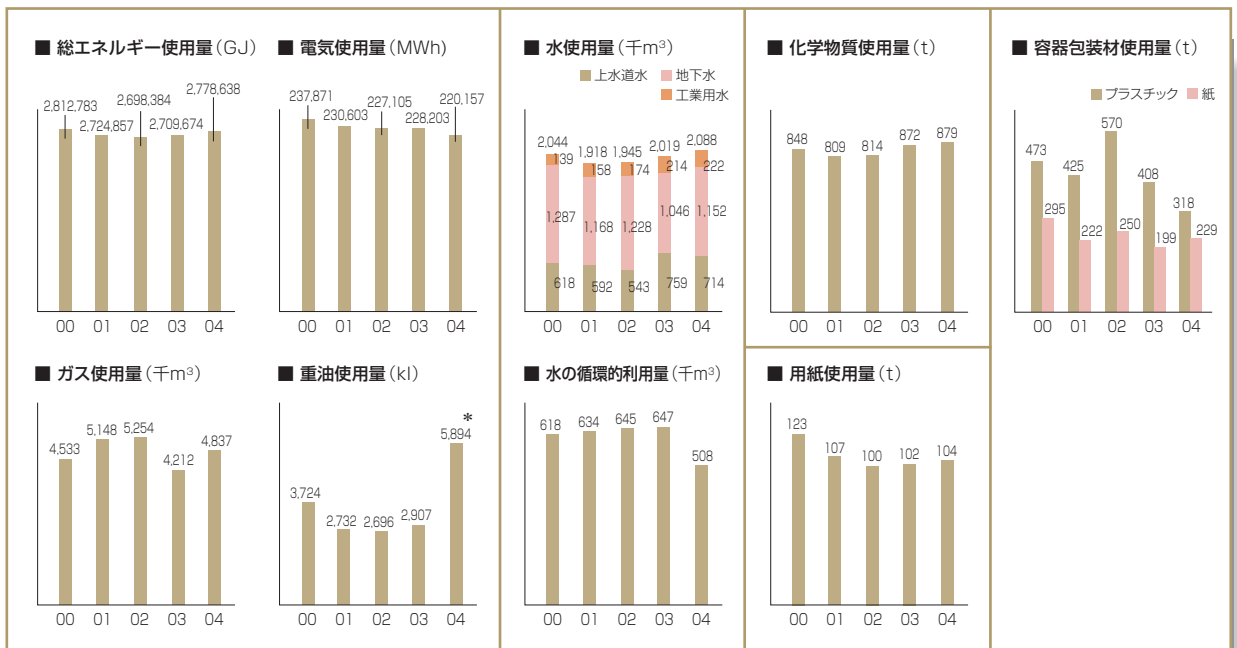
シチズン環境社会ビジョン(2025)を実現するためには連結子会社はもちろんのこと、シチズングループ全体で取り組む必要があります。CSR活動の経済、社会及び環境という3つの柱の一つである環境活動も「グループ全体での最適化」をめざしていきます。

# 事業活動と環境負荷

シチズングループでは事業活動をライフサイクルで把握し、一步一步の積み重ねと継続による環境負荷の低減に努めています。

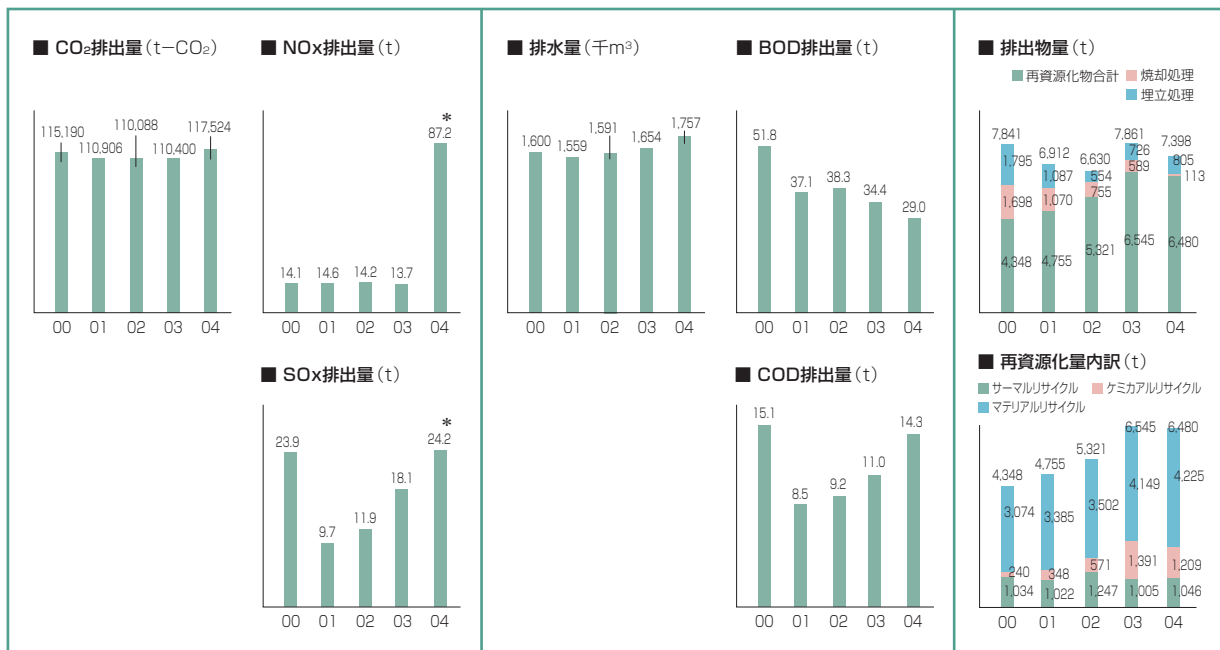


## INPUT



\* コージェネレーション設備導入により、重油使用量が増えた結果増加しました。

# OUTPUT



■集計範囲：シチズン時計(株)／狭小精密工業(株)／シチズン埼玉(株)／シチズン・システムズ(株)／シチズンCBM(株)／シチズンセイミツ(株)／シチズンセイミツ鹿児島(株)／シチズンTIC(株)／シチズン・ディスプレイズ(株)／シチズン電子(株)／シチズン電子船引(株)／シチズン東北(株)／シチズンファインテック(株)／シチズンプラザ(株)／シチズン平和時計(株)／シチズンマシナリー(株)／シチズンミヨタ(株)／シチズンメカトロニクス(株)／シチズンタ張(株)の19社

## ■ 海外拠点でのINPUTとOUTPUT (2004年度)

項目		単位	
INPUT	エネルギー	電気使用量	MWh 8,621
		ガス使用量	kg 33,583
		軽油使用量	kl 426
		総エネルギー使用量	GJ 102,693
	水	上水道水使用量	m <sup>3</sup> 227,772
		地下水使用量	m <sup>3</sup> 99,561
	化学物質	化学物質使用量	t 971
	用紙	用紙使用量	t 73
	容器包装材	紙使用量	t 333
		プラスチック使用量	t 63
OUTPUT	大気排出	CO <sub>2</sub> 排出量(エネルギー使用より)	t-CO <sub>2</sub> 4,300
		NO <sub>x</sub> 排出量	t 0
		SO <sub>x</sub> 排出量	t 2
	排水	排水量	m <sup>3</sup> 229,371
		BOD排出量	t 31
		COD排出量	t 57
	排出物	焼却処理量	kg 9,862
		埋立処理量	kg 65,937
		再資源化物/サマールリサイクル	kg 16,191
		再資源化物/ケミカルリサイクル	kg 35,183
再資源化物/マテリアルリサイクル		kg 195,447	
小計(排出物総量)		kg 322,620	

■集計範囲：CROWN YOUNG INDUSTRIES LTD. FDD PLANT／CROWN YOUNG INDUSTRIES LTD. MP PLANT／CROWN YOUNG INDUSTRIES LTD. LCD PLANT／CITIZEN DE MEXICO S.A. DE C.V.／ROYAL TIME CITI CO., LTD.の5拠点

## 環境負荷低減の取り組み事例

### ■ 画期的なく無排水処理システム>を実現

シチズンセイミツ鹿児島(鹿児島県東市来町)では、時計部品の加工工程から出る排水を工場内ですべて処理し、地域への排水による環境負荷をゼロにする画期的な「無排水処理システム」を導入しました。地下水の使用量の抑制にも効果があります。

まずバレル・メッキ工程から排出される廃液は種類別に貯槽タンクに回収。再利用可能な廃水については沈殿・濾過工程で固形物を取り除き、イオン交換を行って洗浄循環水としてバレル・メッキ工程で再利用します。さらに純度が必要な水は、紫外線殺菌、イオン交換樹脂にて純度を上げ、補充液や最終処理液として再利用します。また、薬品処理された廃液は、CDドライヤー及びフィルタープレスで水分を放出させ、残留した固形分についてはリサイクルします。



CDドライヤー

# 製品での取り組み

シチズンは製造段階における環境負荷低減だけでなく、製品の流通・使用から廃棄・リサイクルの各段階においても環境に配慮された製品を提供したいと常に考えています。有害物質などにかかる法令遵守はもちろんのこと、開発・設計の段階から環境への配慮を検討し、環境配慮型製品の充実に取り組んでいます。

## 製品での環境配慮

「環境配慮型製品管理規定」「化学物質管理基準」を制定し、各事業部の品質管理システムの中で新製品について製品環境アセスメントを開始しました。例えば時計の事業部では、ムーブメントの製品アセスメントは、企画提案、製品化提案、出荷認定/新型認定の各プロセスにおいて、省エネルギー、再資源化、安全性/環境保全、長寿命性にかかるチェック項目が設定されています。完成時計についても同様な各プロセスでのチェック項目があり、製品アセスメントを実施します。また包装梱包材や環境情報の提供についてもチェック項目を設定しています。総合評価として環境管理委員会にてエコラベル基準に沿って評価して、環境配慮型製品を認定します。シチズンでは、2005年度には新しいモデルの製品のうち環境配慮型製品を50%にする目標を掲げて取り組んできており、2008年度には100%を目標としています。

時計の製品基準及び時計以外の製品基準を設け環境配慮型製品基準を満たした製品にはシチズンエコラベルを貼付し、環境配慮型製品として提供します。



シチズンエコラベル

また、シチズングループでは様々な製品を提供していますので、グループとしての取り組みも推進するため、グループ環境配慮型製品分科会を設置し、共通基準の作成、グリーン調達の取り組み、グループの目標策定の活動を進めています。

## LCAへの取り組み

LCA(Life Cycle Assessment)とは、製品にかかわる資源の採取から製造、流通、使用、リサイクル、廃棄に至るすべてのライフサイクルを通じて、投入した資源、エネルギーと排出された物質の量を算出し、環境に与える影響を定量的に評価する手法です。

シチズンでは、製品の企画検討、設計変更、工程改善などでLCAデータを活用し、環境負荷の把握と低減をめざしています。

## エコ・ドライブ腕時計のLCA実施結果

腕時計を対象に、チタンおよびステンレスという外装の材質の違いに注目してLCAを実施しました。

今回、実施したライフステージは、素材製造ステージから製品製造ステージまでです。

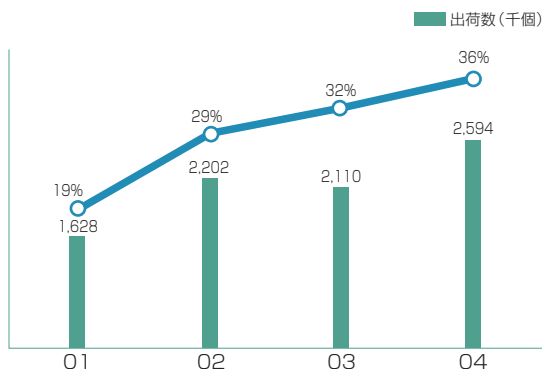
なお、腕時計は時計駆動部のムーブメントと、ケース部・表示部・バンド部からなる外装で構成されています。



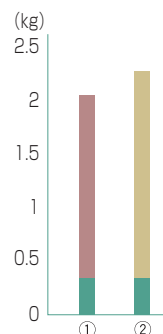
下記のグラフは、腕時計1個あたりの「地球温暖化」「酸性化」「エネルギーの消費」のインパクトデータを示します。

今後は、使用ステージからリサイクル・廃棄ステージまでを含めた全ライフサイクルでLCAを実施することが課題です。

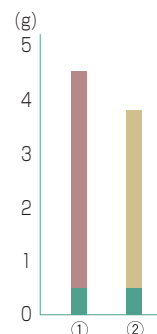
■ シチズンブランド腕時計のエコ・ドライブ商品比率の推移



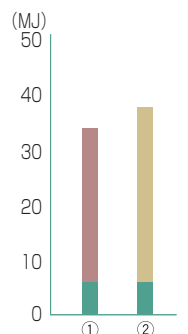
■ 地球温暖化:CO<sub>2</sub>換算



■ 酸性化:SO<sub>2</sub>換算



■ エネルギーの消費



①ムーブメント+外装(チタン) ②ムーブメント+外装(ステンレス)  
 ■ ムーブメント(エコ・ドライブ) ■ 外装(チタン) ■ 外装(ステンレス)



## グリーン調達

シチズンでは、環境管理活動を積極的に行っているサプライヤーから、環境に配慮した製品、部品などを優先的に購入するグリーン調達活動を進めています。その一環として約450社のサプライヤーの理解を深め、確実に対応できる体制づくりをサポートしています。現在、中国からの調達が多くなっていることから、2004年9月と11月香港と中国の東莞においてアジア地区のサプライヤーへのグリーン調達説明会を開催しました。なおグリーン調達基準書は3か国語(日本語、英語、中国語)版で作成しており、化学物質管理に対しては含有禁止物質、含有全廃物質、含有量調査物質、工程内使用全廃物質の4種に分類しています。

サプライヤーから含有禁止物質不使用の保証や環境活動状況の調査表を提出していただき、4段階のランク付けを行っています。そしてサプライヤーの方々にランクアップをお願いしております。

また、グループ各社も、サプライチェーンを通して、グリーン調達基準をクリアできる体制づくりを進めています。

また調達品の検証を行うため、管理化学物質



グリーン調達説明会(中国)

含有の有無を測定できる蛍光X線分析装置を国内と中国生産拠点に設置し確認を行っています。

また、製品に含有される化学物質だけでなく、土壤汚染の原因になる有機塩素系溶剤やオゾン層破壊、地球温暖化の原因となる代替フロンについても、工程内使用全廃物質として2005年12月を全廃期限と定めて活動しています。

## RoHS対象物質の全廃に向けて

シチズンでは、2006年7月に施行されるEUのRoHS指令\*に対応して、2005年12月までにRoHS対象物質の全廃をめざしています。

時計の生産プロセスで使用するはんだについては鉛フリー化が完了し、またICチップの実装で使うはんだバンプの鉛フリー技術も確立しました。

調達品に含まれる化学物質を効率よく管理するためのグリーン調達システムを導入しました。調達先から回収した化学物質含有量情報を集計することで、製品ごとに構成部品に含まれる化学物質を管理できます。また設計担当者が、構成部品ごとに化学物質含有量情報を確認することで、RoHS指令などの規制物質が製品に含有されないように管理を強化します。

\*RoHS指令:EUの有害物質使用制限指令(2006年7月より鉛、カドミウムなど6種類の化学物質を含有した製品の販売が禁止される)。



時計開発本部  
時計設計部 ムーブメント設計課  
武藤 健男

## 自社独自の製品アセスメントで環境配慮をチェック

2003年秋頃から製品のアセスメントづくりを始め、試行を重ね、現在は新製品を対象に実施を始めました。アセスメントは内装、外装、包装において実施しています。私の担当する内装のムーブメントの環境アセスメントでは、進捗管理表として、設計段階から省エネルギー、節電機能、安全性・環境保全についてチェック項目を設けており、機能試作、量産試作、量産先行というステップごとにも同様のチェック項目があります。こうしたアセスメントにより製品認定をするのは環境管理委員

会とし、アセスメント評価に問題がある場合は差し戻す仕組みも考えています。

2004年度から継続し取り組んでいることとして、新しいモデルの環境配慮製品を50%にする目標があります。時計だけでなく、すべての製品を50%は環境配慮のものにし、2008年度には100%の製品での達成をめざしています。クォーツムーブメントはその用途に応じて光発電機能を積極的に新製品へ採用するなど、2008年度100%達成に向け積極的に活動しています。

# 製品での取り組み

「ひとつの開発の終わりは、新たな始まり」シチズンの挑戦は止むことはありません。時計づくりのDNAに環境配慮を調和させ、省エネルギー、省資源、特定有害化学物質の全廃などのニーズに対応する環境配慮型製品を生み出しています。

## 鉛フリー、音叉型水晶振動子

シチズンの音叉型水晶振動子は、クォーツ時計用に開発されて以来、市場で高い信頼性を得て、長い歴史を有しています。その用途は、32kHz計時機能用として時計にとどまらず、家電、オーディオ機器、パソコンなど多岐に渡っています。

これらの用途の中から特に携帯電話、小型携帯機器向けに開発した超小型音叉型水晶振動子は、表面実装セラミックタイプで、独自の封止技術、セラミックパッケージを採用して生み出された、完全鉛フリーの製品です。



## 精密高機能化学製品AK・AOシリーズ

シチズンでは、時計・精密機器をバックアップする役割を果たす化学製品においても、高性能を維持しつつ環境に配慮した製品の開発を進めています。

次世代対応型高性能潤滑油(AOオイル・シリーズ)は、低温動作性がよく、長期間使用しても劣化しにくいのが特徴です。時計では小型モーターの消費電力の経時変化が抑えられることから電池寿命を延ばすなどの環境効果に寄与する製品です。

高性能接着剤(AK接着剤・シリーズ)は、わずか数秒で接着を完了する省エネルギーの製品です。光で固める接着剤では従来4kWの消費エネルギーを使用していたところを、この製品では0.2kWしかかからずしかも1秒以下で接着が可能です。接着剤自体が省エネルギー(CO<sub>2</sub>削減)に役立っているのです。さらに、このような低エネルギーで硬化が可能な接着剤により、ねじなどの部品を減らせる環境効果もあります。



## 環境配慮型アナログウォッチ ムーブメント「スーパー2035」

世界のアナログ時計市場でシェアNo.1のキャリバー2035を、さらに環境配慮型に極めた製品が「スーパー2035」です。EU-RoHS指令の有害物質規制に適合すると共に、業界初の無水銀電池を搭載し、独自の低消費電力技術により4年の長電池寿命を実現しました。また、メタルパーツを用いた丈夫な構造で、分解修理が可能となっており、使い捨てでないため資源の有効活用が図れます。月差±15秒の時間精度に環境保全、省資源も実現した製品です。



## 携帯電話機向けAF機能付CMOSカメラモジュール「CCM-XUA」シリーズ

腕時計のムーブメントのモーターを応用した新開発のステップモーターを、カメラのアクチュエーターに採用することで、オートフォーカスの待機電力が大幅に削減され、従来機比(圧電モーター使用時)約1/10の低消費電力を実現しました。

CMOSとは、相補型金属酸化膜半導体を用いた受像素子のこと。CCD(電荷結合素子)に比べて小型化が可能で、1/10~1/5の消費電力で駆動します。部品点数が少ないため、製造コストや故障率も低く抑えることができます。



# 地球温暖化防止

シチズングループでは、地球温暖化を重要な地球環境問題としてとらえ、全事業所でCO<sub>2</sub>排出量削減に向けて活動しています。また物流の効率化によるCO<sub>2</sub>削減活動も進めています。

## グループのCO<sub>2</sub>排出量削減目標と成果

シチズングループのCO<sub>2</sub>排出量は、2003年度比1.0%削減の目標に対し6.5%の増加となりました(生産拠点の統合と生産数の増加により4.5%、新たに加わった3事業所分2%)。

2005年度の目標は、2004年度比で絶対値1.5%の削減とし、今後も削減活動を継続していきます。

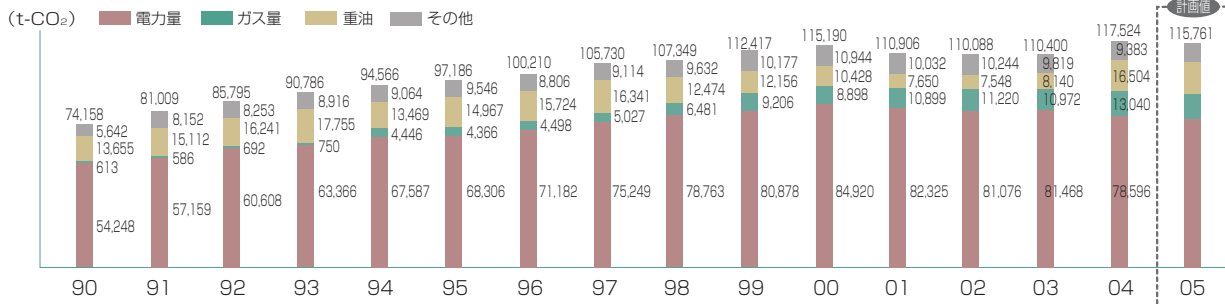
シチズンマシナリーでは、コージェネレーション設備を導入し、社内で使用する電力の約80%を発電でまかなっ

ています。また、停電や瞬停時に商用電源を瞬間的に切り離し、発電機と重要負荷を直結する高速遮断器を採用したことにより、重要設備の運転を瞬時から守るバックアップ電源としても大きな効果を発揮しています。



シチズンマシナリーの  
コージェネレーション設備

## ■ シチズングループのCO<sub>2</sub>排出量



## 物流の効率化の取り組み

シチズングループ国内の主要生産拠点間で運行しているルート便において、従来西東京市・飯田市の2カ所にあった物流基点を2004年7月から成田市に一本化し、物流の効率化とCO<sub>2</sub>の削減14%を実現出来ました。中でも甲信地区が大幅に削減出来ました。

今後も、さらなるグループ国内会社間の物流の効率化とCO<sub>2</sub>の削減活動を推進します。

### ■ 従来物流

飯田市・西東京市を基点とした物流

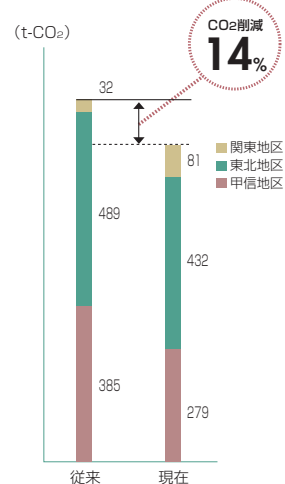


### ■ 現状物流

成田市を基点とした物流



## ■ CO<sub>2</sub>削減効果(年間)



# 廃棄物リサイクルと有害化学物質削減の取り組み

シチズングループでは、効率的に生産して廃棄物の排出そのものを減らすことを最優先に、また廃棄するものはリサイクルするなど、資源生産性の向上に努めています。また有害化学物質については、製品に含有するものばかりでなく、製造工程で使用する物質を含めて、廃止または削減に向けた取り組みを強化しています。

## 廃棄物削減に向けて

シチズングループでは、毎年2回廃棄物担当者で定期的な廃棄物削減分科会を開催し、廃棄物の削減に努めています。2004年度は、廃棄物排出量7%削減を目標に活動を進めました。その結果、廃棄物排出量は9%減少し、目標達成できました。

主な活動として、シチズン・ディスプレイズの有機汚泥脱水機導入、シチズンファインテックの汚泥乾燥機導入により、汚泥排出量の削減が進みました。2005年度は、グループ全体で廃棄物排出量2%削減をめざして活動を続けていきます。

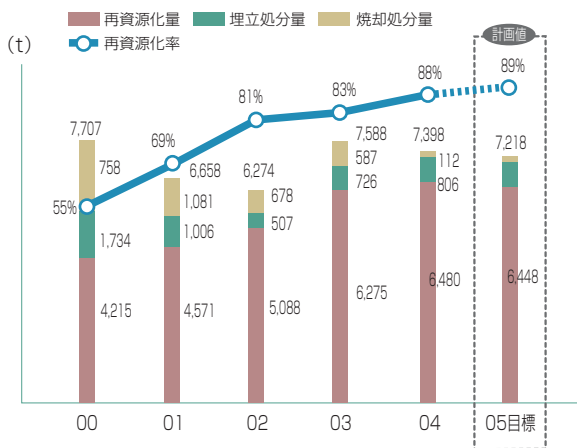
## 再資源化率向上の取り組み

再資源化の取り組みにあたっては、再資源化を実施している委託業者の選定が鍵となります。そのため、シチズングループでは各社持ち回りで相互訪問することにより、各社の事例やノウハウ、処理単価などを共有しています。2004年度は全体で再資源化率86%を目標に活動を進めました。実績は再資源化率は87%となり、目標達成できました。

またその中で、5社\*が再資源化率99%以上となりごみゼロを達成しました。2005年度は、グループ全体で再資源化率89%をめざして活動を続けていきます。

なお、年度途中より新たに2社が加わり、グラフにはそのデータを含んでいます。

### ■ シチズングループの排出物量と再資源化率の推移



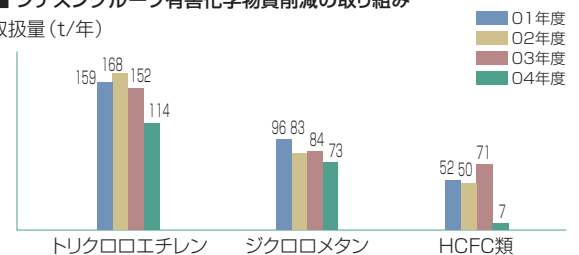
\* シチズン時計(株)、シチズン埼玉(株)、シチズン・ディスプレイズ(株)、シチズン電子(株)、シチズン東北(株)(盛岡事業所)

## 有害化学物質の削減

シチズングループでは土壌汚染の原因となる有機塩素系化合物のトリクロロエチレン、ジクロロメタン、オゾン層を破壊するHCFC類を2005年12月に全廃をめざした活動を行っています。さまざまな部品の加工後の洗浄や乾燥に多く使用されていますが、炭化水素系の溶剤への切り替えや水を使った洗浄方法の導入を進めており、これらの装置を国内外の生産拠点に順次導入しています。その結果、3物質群の総取扱量は2001年度比37%減少となり、中でも特にHCFC類の削減が進みました。

### ■ シチズングループ有害化学物質削減の取り組み

取扱量 (t/年)



## PRTR法への対応

2004年度の届出は下の表のとおりです。届出物質の種類は14物質から17物質と増えましたが、取扱量は2003年度の378トンから342トンと減少しました。

### ■ シチズングループ化学物質排出・移動量

(単位:t/年)

化学物質名	取扱量	排出量				移動量	
		大気への排出	水域への排出	土壌への排出	埋立処分	下水道への移動	事業所外への移動
トリクロロエチレン	112.8	44.9	0.0	0.0	0.0	0.0	57.7
ジクロロメタン	73.0	59.3	0.0	0.0	0.0	0.0	13.5
キシレン	34.3	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	8.2
アンチモン及びその化合物	26.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.6
マンガン及びその化合物	22.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.9
ニッケル化合物	15.2	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	13.6
2-アミノエタノール	13.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	6.4
ふっ化水素及びその水溶性塩	8.9	0.0	2.4	0.0	0.0	0.0	6.4
ポリオキシエチレン・ポリオキシエーテル	8.5	0.0	0.0	0.0	0.0	8.5	0.0
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6
トルエン	4.8	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
N,N-ジメチルホルムアミド	4.7	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
HCFC-141b	4.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
銀及びその水溶性化合物	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
無機シアン化合物	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
鉛及びその化合物	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
コバルト及びその化合物	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
合計	341.5	115.7	3.1	0.0	0.0	8.5	147.1

# 環境会計

シチズングループでは、環境保全にかかわる費用と効果を定量的に把握し、環境管理活動の実績の効果を評価しています。

**環境会計について** 対象期間 2004年4月1日～2005年3月31日

2004年度は、集計対象範囲を2003年度の17社から19社に拡げ連結環境会計を集計しました。

環境保全効果は2004年度はエネルギー使用量、水使用量、化学物質使用量、CO<sub>2</sub>排出量の増加がありました。排出物総量、プラスチックの容器包装使用量は減少しました。

また排出物総量の減少にともない再資源化物量は昨年より減少しています。なお再資源化率(P27参照)は向上しています。

経済効果の算定基準は実質効果のみ算出しており、いわゆるリスク回避効果とみなし効果は算定していません。当該期間の投資総額は16,667百万円、研究開発費総額は10,226百万円でした。

なお集計にあたり環境省環境会計ガイドライン2002年版に準拠しています。

## ■ 環境保全コスト

環境保全コスト		(単位:百万円)	
分類	主な取組の内容	投資額	費用額
1)事業エリア内コスト		1,353	1,185
内訳	①公害防止コスト	1,088	736
	②地球環境保全コスト	242	154
	③資源循環コスト	23	295
2)上・下流コスト	容器包装リサイクル、エコマーク使用	20	18
3)管理活動コスト	環境教育、環境マネジメントシステムの運用、社内緑化・美化	19	311
4)研究開発コスト	ソーラー発電時計、時計基礎技術の研究開発	126	268
5)社会活動コスト	社会貢献活動	0	2
6)環境損傷対応コスト		0	0
合計		1,518	1,783

■集計範囲：シチズン時計(株)／狭山精密工業(株)／シチズン埼玉(株)／シチズン・システムズ(株)／シチズンCBM(株)／シチズンセイミツ(株)／シチズンセイミツ鹿児島(株)／シチズンTIC(株)／シチズン・ディスプレイズ(株)／シチズン電子(株)／シチズン電子船引(株)／シチズン東北(株)／シチズンファインテック(株)／シチズンプラザ(株)／シチズン平和時計(株)／シチズンマシナリー(株)／シチズンミヨタ(株)／シチズンメカトロニクス(株)／シチズンタ張(株)の19社

## ■ 経済効果

環境保全対策に伴う経済効果 -実質的效果- (単位:百万円)		
効果の内容		金額
収益	事業活動で生じた有価物の売却による事業収入	112
	省エネルギー活動によるエネルギー費の節減	215
費用節減	省資源活動による用水費、排水処理費の節減	11
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費の節減	14
	その他	65
合計		417

## ■ 環境保全効果

環境保全効果						
効果の内容		環境保全効果を表す指標				
		指標の分類	単位	2003年度	2004年度	増減量
1)事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量	GJ	2,709,674	2,778,638	68,964
		水使用量	千m <sup>3</sup>	2,019	2,089	69
		化学物質使用量	t	872	879	7
	②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	CO <sub>2</sub> 排出量	t-CO <sub>2</sub>	110,400	117,524	7,124
		排水量	千m <sup>3</sup>	1,654	1,757	103
		排出物総量	t	7,861	7,398	△463
		再資源化物量	t	6,545	6,480	△65
2)上・下流コストに対応する効果	③事業活動から産出する財・サービスに関する効果	プラスチックの容器包装使用量	t	408	318	△90
		紙の容器包装使用量	t	199	229	30

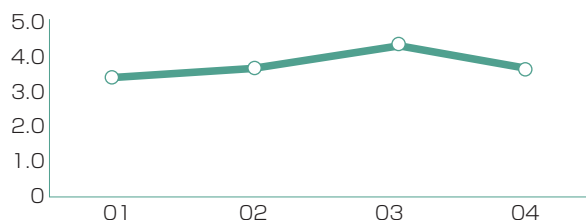
## 環境効率指標

環境負荷売上指数は、残念ながら昨年より低下しており、改善することが課題と考えています。

●環境負荷売上指数 = 売上高 / 環境負荷量 \* (CO<sub>2</sub>)

\*環境負荷量は環境保全効果のCO<sub>2</sub>排出量

## ■ 環境負荷売上指数 (百万円/t-CO<sub>2</sub>)



# お客さま

時計などをお使いいただく一般のお客さま、情報電子機器・産業用機械のユーザーである企業のお客さまなど、シチズンの製品とお客さまは多岐に渡ります。あらゆる製品におけるお客さま満足度の向上は、シチズンブランドの信頼を高めることでもあります。

## ザ・シチズン

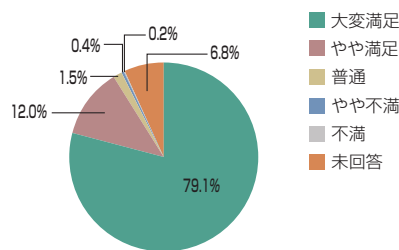
ザ・シチズンは1995年から販売している生涯修理対応の腕時計です。開発に託したテーマは4つ。

- ・信頼できるメーカーとしてしっかりと作ったもの。
- ・最も使いやすい品質とデザインであるもの。
- ・常に自分の分身として永く愛用できるもの。
- ・メーカーとして、その製品に責任を感じ続けているもの。

こうして誕生したザ・シチズンは10年間無償保証とし、その10年間に3回の無料定期点検を行います。その後も、愛着をもって生涯で愛用いただくために、修理対応を継続します。



■ 定期点検サービス満足度評価結果



## カスタマーカード

特別な企画商品、高額商品にはカスタマーカードと呼ぶ保証カードをつけています。お客さまの情報をデータ管理し、メンテナンスや修理の依頼があればすぐにデータにより情報が確認できるので、的確な対応ができる仕組みとなっています。



## お客様時計相談室

2000年7月に開設された「お客様時計相談室」は、時計に関するお客さまの問い合わせに対応する窓口としてすっかり定着し、現在では年間約5万件のご利用があります。そのうち、電話約4万件、メール約1万件となっています。その場で回答できない内容については担当部署へ問い合わせるなどして、お客さまへの

回答が保留となった場合でもできるだけ迅速な対応をモットーとしています。また、ここからピックアップしたお客さまの声を、社内報『シチズンライフ』に隔月企画ページ「シチズンファン便り」として掲載し、従業員に伝えています。

さらに、お客さまに最も近い存在であるこの相談室から、お客さまの目線で製品チェック活動を行い、実際の商品における満足度を向上させる体制も築きました。それが、2004年10月にCS推進センター内にできた「商品出荷認定室」です。

## お客さまの声を開発にフィードバック

お客さまからあがった声をCS推進センターで引き上げ、それを開発・製造にフィードバックする仕組みを活用しています。お客さまの要望はさまざまですが、それが実現できるものであるかどうか、実際にトライしてみるにより、その結果を改良や商品企画に反映する方法も取り入れています。片手が不自由なのでりゅうずの使い勝手をもっとよくしてほしい、時計に傷をつけたくないのでサファイアガラスにしてはどうか、針が銀色に光って見にくい……一つひとつの声に耳を傾け、貴重な情報として対応しています。

## BtoB（企業間）におけるお客さま対応体制

BtoBビジネスにおいては、製品性能とメンテナンスが一体化してこそ満足いただけるもの。例えば産業用機械事業ではお客さまが海外展開すれば「いち早くメンテナンスするためにお客さまのそばにいる」という基本姿勢で、その場所に合わせた拠点展開を図り、国内外においてきめ細かなお客さま対応を行っています。また、サービスやノウハウの均一化を図るため、各国の技術的情報を提供しあい勉強しあう「グローバルエンジニアリングミーティング」も実施しています。

フィールドでの情報やお客さまのニーズは世界中の拠点から月次レベルでフィードバックされ、業務展開に反映される流れとなっています。

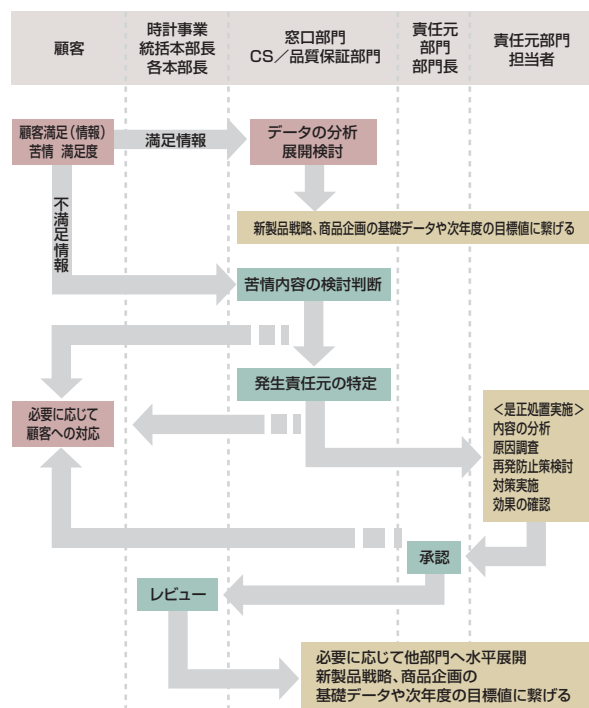


お客さまの満足度にも製品品質にも「これでよし」という頂点はありません。さらに時代の変化が新たな課題をもたらすこともあります。シチズンでは、事業分野のさまざまなプロセスや部署において、お客さまの満足を考え実現する創意工夫を行っています。

## 顧客満足度評価システム

顧客満足度評価システムにより、お客さまの「満足度情報」、「不満足度情報」を分類・分析し、企画・開発部門、製造部門、販売部門など関係するあらゆる部門へその情報を展開しています。

### ■ 顧客とのコミュニケーション及び顧客満足の評価フロー図

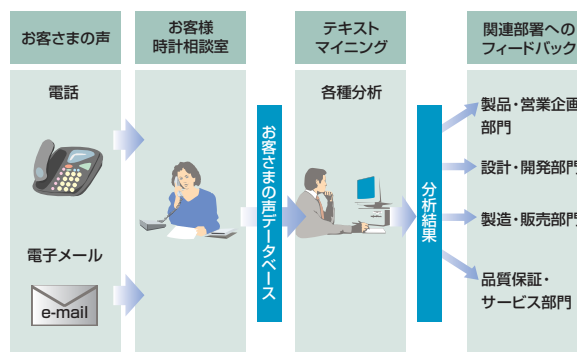


## テキストマイニング

大量のお客さまの声を文書データから自由自在に検索ハンドリングできるシステムを構築しています(テキストマイニング)。このシステムにより、お客さまの情報は企業の宝としてとらえ、製品開発・製品企画・品質及びサービス改善などへ反映させてお客さまの満足向上に繋げることに活用いたします。

即ち、市民に愛される製品を提供するための不可欠なシステムとなります。お客さまの要求内容は常に変化しており、さらなるバージョンアップを進めております。

### ■ テキストマイニング分析システム



## ユニバーサルデザイン

シチズンでは腕時計から健康機器まで幅広い製品において、高齢者や障害者などのユーザビリティまでも配慮したユニバーサルデザインの考え方や手法を取り入れて展開しています。お客さまとの対話から得られたニーズを製品開発プロセスにフィードバックすることにより、どなたにも使いやすいモノづくりにこだわっています。

## ホームページによるユーザーサポート

シチズンでは、ホームページにおいて時計の取り扱い方法がわかるユーザーサポートを掲載しています。お客さまがよりわかりやすくご利用いただくために、国内時計メーカーでは初めて動画つきの工夫も取り入れています。「このボタンを押すとこうなります」という実際の操作を体感できるため、好評をいただいています。



## 個人情報保護法

個人情報保護法(2005年4月施行)に対処し、シチズンでは2004年10月1日に個人情報保護対策委員会を設置してプライバシーポリシーを策定しました。その内容をお客さまにはホームページやリーフレットなどにより、広く告知しています。一方、従業員には教育などを通してセキュリティに対する意識づけを強化しています。

# お取引先／株主

シチズンは、お取引先と共存共栄の関係を築いていきます。また、IR活動を通して、投資家の皆さまにシチズンのありのままの正しい姿を伝えていきます。

## 公正な取引引き

### ■ 下請法に関する警告

2004年10月、残念ながら公正取引委員会より下請法に関する警告を受けました。該当事項は「注文書の交付義務違反（価格未定の注文書発行方式の不備）」「書類保存義務違反（システムから注文書を再印刷した際に印刷日が発注日になってしまうため、明確な保存期間が不明になった）」です。

シチズンでは、下請法健全化委員会がこれらの指摘の改善策を検討しました。「注文書の交付義務違反」については正式な発注書を再発行する、「書類保存義務違反」についてはシステムの改良を実施しました。

### ■ 下請法遵守委員会（旧下請法健全化委員会）

下請取引における各部門の監査、セミナーや講習会などの教育を行って、下請法管理の徹底を図ることを目的として、下請法健全化委員会を1999年に始動しています。2005年度、当委員会の役割を強化し、下請法遵守委員会として下請法遵守のための業務改善を進めていきます。



下請法社内講習会

### ■ 安全保障貿易管理

国際的な平和と安全維持の観点から、輸出管理の枠組みや関係条約に基づき、大量破壊兵器や通常兵器などの貿易の規制・管理を行う「安全保障貿易管理」が各国で行われており、日本においてもルールが定められています。

シチズンの安全保障貿易管理の基本方針は、法令で規制されている貨物・技術について、不正に輸出・提供しないこと。これを社内に徹底させるために、安全保障貿易管理規則（CP）を制定しており、経済産業省に届け出されています。CPIに従い社長を最高責任者として、直属の安全保障貿易管理委員会も設けられています。シチズンの製品・技術は大量破壊兵器などに直接関係するものではありませんが、それらの製造・開発などに転用されることを防止するため、用途や需要者のチェックを中心とした厳重な管理

体制をとっています。

## サプライチェーンでの取り組み

これまで社内各部門の発注はともすると各部門にまかされていましたが、発注業務の標準化に取り組み、業務の効率化、コストダウン、サプライチェーンの活用などの効果を図っていきます。

資材部では、取引先について、グリーン調達やCSRの考えを取り入れた評価基準の見直しを図っていきます。

## IR活動

CSRを含めてシチズンがどのような活動を行っているか、正しい情報開示をしていくことにより投資家の皆さまにシチズンのありのままの正しい姿を理解していただけることを願っています。

日頃からいかに株主や投資家と向き合っIR活動を行っているかが、すなわちCSR活動だという観点から、一方的に情報を発信するのではなく、意見や情報を吸収して経営に反映させていけるようなコミュニケーション型のIR活動を心がけています。



IR室  
室長 須永 政利

### 市場の声を会社につなげて 企業価値の向上に貢献

当社のIR室（投資家向け広報）は現在、専任者3名の体制です。主な業務としては、決算発表及び決算説明会、国内外の工場見学会、主に個人投資家を対象とした会社説明会、国内外の機関投資家との個別ミーティング、及びそれらに必要なIRツールの作成

です。私がIRを始めた5年前と比べると、決算発表は年2回から4回へ、個別ミーティングも年間240件以上と2倍以上になっており、年々、IRの重要度が増していることを感じています。今後、株主構成の変化や会社法の改正などの環境変化で、重要性はさらに高くなり、業務の幅を広げることが必要と感じています。今後も市場の声を会社につなげることで企業価値向上に貢献したいと思います。



# 従業員

従業員一人ひとりがやりがいや生きがいをもって仕事に取り組めるような人事制度を考え、さまざまな施策の開始や改定を行っています。検定などで評価の仕組みが適用される技術職だけでなく、一般職の従業員においても、レベルやテーマにあわせた教育体系を整備しています。

## 働きやすい職場づくり

### ■ 業績評価

現在、シチズンでは、より公正な評価と共に従業員のモチベーションを高めるべく、システム化を含め業績評価の改定を進めているところです。

### ■ 教育体系

カンパニーカレッジ(全社的な研修)、ビジネスカレッジ(業務遂行に必要な教育)、オープンカレッジ(自己啓発を支援する講座)から成るシチズン能力開発体系が整備されました。今後は、女性向けのオープンカレッジ開講なども実施し、女性が働きやすい環境づくりもさらに推進していきます。

### ■ ビジネスライセンス表彰制度

シチズンで定めた43種類の資格を取得した従業員に報奨金を支給する制度で、2003年度にスタートしました。2005年度は75名の従業員が表彰され、そのうち、最高ランクのProfessional-SSSは、中小企業診断士の2名となっています。



ビジネスライセンス表彰

### ■ 退職給付・年金制度

2005年度、ライフプランの多様化や人材流動化に向けて、確定拠出年金の導入を行います。シチズンでは運用の苦労の少ない従業員サイドに立った、選択肢のある制度設計にします。

### ■ 福利厚生関係

2004年3月に鶴沼保養所を閉鎖し、ミサワリゾートの「ライフサポート倶楽部」へ加入(「プチカフェテリアプラン」

を導入)しました。一年目の宿泊延人数は1,692人を数え、非常に好評でした。また、毎年夏に行っている従業員向けイベントの「納涼祭」も地域住民も含め3千人を越える人が来場し、盛り上がりました。

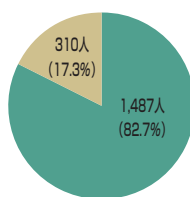


納涼祭

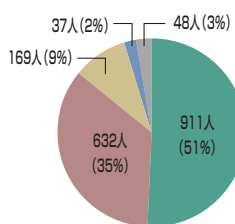
## 雇用の状況

従業員数1,797人(2005年4月1日現在、契約社員も含む)

### ■ 男女従業員の内訳



### ■ 職種別従業員人数



### ■ 勤続平均年数 (年)

性別	勤続平均年数
男	21.7
女	16.5
総計	20.8

### ■ 平均年齢 (才)

性別	平均年齢
男	45.3
女	39.4
全体	44.3

### ■ 基準内賃金月額平均 (千円)

性別	基準内賃金平均
男	395
女	263
総計	377

### ■ 障害者雇用率 (%)

雇用率	1.80
-----	------

# 社会 従業員

私たちの心と身体の健康は、良い仕事と健全な家庭の礎です。シチズンは、さまざまなかたちで心身両面の健康をサポートしています。

## 仕事と家庭の両立をめざして

シチズンでは「次世代育成支援計画」を導入していますが、育児休職制度は1992年に導入しており、これまでに延べ75名が利用し、復職率は92%です。本人が安心して戻ってきやすいよう、復職の際は必ずもとの仕事に戻すことを原則としています。最近では希望者には育児休職期間中、自宅でイントラネットによる会社の情報が見られるサービスを提供しています。今後の課題は、時代のニーズである男性の育児休職制度の利用促進です。

## 健康管理

### ■メンタルヘルス

厚生労働省が「心の健康づくり」に関する指針を策定し企業に参画・実施を求めている時代背景もあり、シチズンでも、心の健康づくり=メンタルヘルスに取り組み始めました。心の健康づくり計画をもとに、従業員をサポートするシステムの構築を推進していきます。2004年度は、役職者を対象にメンタルヘルス講習会を3回実施しました。

### ■診療所リニューアル

2004年2月、東京事業所の診療所をリニューアルしました。それに併せて、診療所内に「健康相談室」を設置し、従業員が心身の健康について気軽に相談できる環境を整えています。

### ■禁煙サポート

受動喫煙対策と別に、喫煙者に対して年2回、ニコチンシールを利用した「禁煙サポート」を産業医及び看護師により実施しています。1年後の禁煙成功率30%の目標を掲げて活動しています。

### ■健康ウォーキング

シチズンでは、従業員の運動のきっかけづくりとして、健康ウォーキングを毎年実施しています。2004年度は2回行われ、のべ265名の参加者がウォーキングを楽しみました。



人事部  
大館 のりえ

### 育児休職を取得して

育児休職を取得する立場になると、職場に迷惑をかけてしまう、復帰後は元の仕事に戻してもらえるのかなど不安が募りました。しかし、上司に報告した際には「もちろん復帰するよね」と言ってもらえ、現職に戻していただいたので、安心して育児休職を取得し、仕事復帰することができました。

現在は、仕事と育児の両立の大変さを実感する日々です。特に子どもが病気の時など、満足に仕事ができないことにもどかしさを感じることも多々ありますが、家族や職場、保育園など周囲の人々に支えていただきながら、上手に両立していければと思います。

やりがいのある仕事を任せていただいていますので、母親としてだけでなく、一人の女性としても輝いていきたいですね。



健康相談室  
保健士 澁谷 基子

### メンタルヘルスケア

メンタルヘルスケア活動が本格化し2年目に入りました。活動内容は①ストレスチェックによる個人への気づきへのケア、②新入社員・30歳・役職者に向けた経年的な教育研修、③産業保健スタッフによるメンタルヘルス相談、④社内報、イントラネットなどを利用したメンタルヘルスケアに関する事業場内外の情報提供です。

これらの活動を通じ、心の疲労は誰にでも起こり得るという啓発活動と意識改革、その心の変化に自分自身も周囲も気づけるように、産業保健スタッフによる面談を積極的に展開していきます。そして健康相談室を、誰もが気軽に利用できるような環境づくりを行い、会社内のオアシスのような存在にしたいと考えています。

どれだけハイテク時代になっても企業発展を担うのは「人」です。シチズンでは、職場の安全衛生管理、従業員の事故・災害防止、などに万全の配慮をほどこしています。その積み重ねの成果として、東京事業所では無災害記録を継続中です。

### 安全衛生管理活動

安全衛生については、3現主義（現場・現物・現実）と3即主義（即時・即座・即応）に基づいて活動を行っています。年間計画に基づき、現場部門、間接部門も含めた職場交換パトロール、産業医・衛生管理者・作業環境測定士などの専門家による定期的なパトロールを実施し、職場の安全衛生活動の維持・管理を図ると共に、従業員各自の安全衛生に対する意識づけを促しています。また、社内の安全衛生委員会による組織的な活動を行う他、社内イントラネットにより「安全・健康トピックス」の情報をペーパーレスで提供しています。

東京事業所では、2004年8月24日に厚生労働省が定める第二種無災害記録を達成し、現在12,723,275時間の記録を継続中です(2005年8月15日現在)。

特に、大きな災害につながる可能性のある設備・機械の導入にあたっては、設備安全専門審査会を中心とした安全審査を計画・発注・検収・導入の4段階で実施し、安全の確保を図っています。この継続への取り組みが、休業災害ゼロに向けて一つの指標となっています。



プレス機の安全対策を確認中  
(設備安全専門審査会)

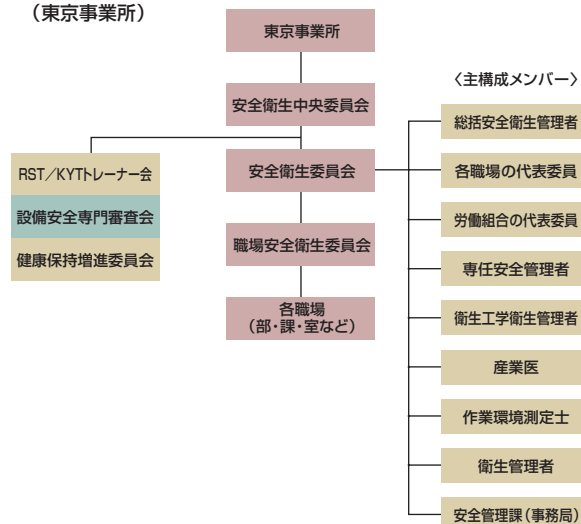
### 防災関連業務の集中コントロール

リスク管理の強化を図るため、防災専任担当を新設しました。これにより、従来は各部門で個別対応していた危険物・消防・高圧ガスなどの防災関連業務のソフト面の集中管理・対応体制を開始し、CSRの推進と連動させて法令遵守を徹底していきます。

#### ■ 休業災害（度数率・強度率）

	00	01	02	03	04
度数率	0.88	0	0	0	0
(同製造業全体)	(0.67)	(0.58)	(0.50)	(0.55)	(0.54)
強度率	0.04	0	0	0	0
(同製造業全体)	(0.02)	(0.05)	(0.05)	(0.01)	(0.05)

#### ■ 安全衛生組織体系（東京事業所）



### 「女性雇用の優秀企業」に認定(CPK：韓国シチズン精密)

いつの時代も女性にとって仕事と家庭の両立は課題となっており、企業側がそれに理解を示し環境を整えていかなくては、両立は実現できません。CPKは、従業員数180名のうち、女性が110名で全体の60%という比率になっています。2004年7月5日、昌原市から「女性雇用の優秀企業」に認定され、朴市長から表彰状を授与されました。

これは、韓国が「第9周年女性週間」を迎えた機会に、昌原市の企画として実施したものの。男女平等な採用を行ない、女

性たちが仕事と家庭を両立できる環境を整え、女性の職場参加の拡大に寄与した企業を選定して、「女性雇用の優秀企業」として認定したのです。昌原市はCPKの地元でもあり、この受賞は従業員たちにとってひときわうれしいものとなりました。今後も全従業員にとって働きやすい環境づくりにいっそう取り組んでいきます。



シチズン(市民)という社名を尊び、ステークホルダーである地域社会との交流を大切にしています。消防署、警察、商工会議所、町内自治会、地元の学校などに関連した草の根的な活動では地道に続けているものが多く、企業市民として信頼関係を築いていきます。

### マラソンなどで活用、スポーツ計時

特に正確なタイム測定が必要とされるマラソンや駅伝などでは、公式計時協賛と共に、専門技術をフルに生かしたサポートをしています。それは、ICセンサーチップを用いた「自動測定システム」です。選手各自の胸ゼッケンに個人IDを書き込んだICセンサーチップを装着し、自動測定装置で認識するもので、GPS制御によって正確な時を刻んでいるので、選手たちの走行中の各通過ポイントでの計測データが寸分の狂いもなく得られます。これは即時にテレビ放送にも活用され、視聴者にもこのデータによる計測タイムや順位が届けられています。



自動測定システム

センサーチップ

### シチズン平和時計の地域交流

シチズン平和時計では、長野県飯田市などが主催する「子ども科学教室」で、FMラジオをつくる講座を受け持つ子どもたちにラジオづくりの喜びを体験する機会を提供しています。地域の養護学校の高等部の生徒たちに腕時計の部品取り扱いや簡単な組立訓練の技術指導を行ったり、生徒たちを2週間会社に受け入れる校外学習に協力したりするサポートも行っています。

また、地元の自然資源である天竜川 の環境保全のため、「天竜川水系環境ピクニック」、「天竜川水系健康診断」などにも社員や家族が積極的に参加しています。



子ども科学教室

### 伝統ある卓球部と地域のコミュニケーション

卓球部はシチズンにおいて伝統ある部であり、各種大会でも優秀な成績をおさめています。この実業団トップクラスの選手たちが講師を務める西東京市卓球教室を2004年度も開催し、170名の参加がありました。選手たちは地元のラジオFM西東京へ出演しており、卓球による幅広い活動を通して、地域社会とのコミュニケーションを育んでいます。



### シチズン・オブ・ザ・イヤー

1990年シチズン時計創立60周年記念事業としてスタートした「シチズン・オブ・ザ・イヤー」は、社名のシチズンのごとく社会の中で一隅を照らす善行をしている方々を表彰するものです。シチズンにふさわしい事業としてすっかり定着し、15回目を迎えて3組の受賞者が選ばれました。

受賞者の活動を本にまとめてきており、2005年には11回目から15回目までを第三冊目として制作、日本全国1,800カ所以上の公立図書館に配布しました。



### 地域の環境美化のために、グループ各社の清掃活動

シチズンファインテック、シチズンマシナリー、シチズンミヨタの3社は、長野県御代田地区合同ボランティア活動として、年3回の清掃活動を実施しています。それぞれの会社周辺及び沿道のゴミ拾いを行い、地域の環境美化に貢献しようというものです。

シチズンセイミツでは、富士河口湖町など自治体が主催する「河口湖・西湖クリーンアップキャンペーン」に毎年参加し、町内の一斉清掃を行っています。また、シチズン電子は「富士山をきれいにする会」主催の「富士山クリーン作戦」に参加し、富士山のゴミ拾いを行っています。



河口湖・西湖クリーンアップキャンペーン

### 蝶保護活動

シチズンミヨタでは、「北御牧周辺に絶滅が危惧されている蝶、オオルリシジミがいるから保護してほしい」というお取引先さまからの一言がきっかけとなって、貴重なオオルリシジミの保護活動に地域の方々と一緒に取り組んでいます。「オオルリシジミを守る会」の会員となり、構内での親子観察会など、さまざまな企画を推進しています。



### サンパウロの学校建設(ブラジル)

ある時計店では、その店で扱っている時計ブランドに協力を依頼して、こんな取り組みをしています。毎年年末に、店が仕入れた商品金額の1%を各ブランドに自発的に Congregacao das Irmãs de Caridade do Japao (日本慈善尼僧協会)へ寄付してもらい、協会がこれを資金としてブラジル各地に学校 (Escola Caritas : 慈善学校) を設立し、貧しい子どもたちに優先的に教育を施すよう促しているのです。Citizen Watch do Brasil S.A.も、時計ブランドの1社として、この取り組みに毎年参加しています。

### ソーラーカーレース(香港)

2005年1月16日、27チームが参加して、サッカー競技場などで「第5太陽カーの競争」が行われました。自ら太陽カー(ソーラーカー)をつくり競争するこのレースは、広くおおぜいの方々に再生可能なエネルギーをアピールし、現在悪化が懸念されている大気汚染や気候変動などを課題として認識させ、環境について考える機会となることを目的としています。エコ・ドライブ製品を扱うCITIZEN WATCHES(H.K.) LTD.では、このレースの意義に賛同し、今回からオフィシャルタイマーとして参加しました。今後も毎年参加していく予定です。



# 第三者意見



## 五代 利矢子

評論家

シチズン・オブ・ザ・イヤー  
選考委員会委員長

企業への「信用や信頼」は一朝一夕に生まれるものではありません。年月をかけて自社の製品を送り出してきたことに対する社会の評価です。その評価も気を抜けば一瞬にして失墜してしまいます。

シチズンはその社名に因んで「市民に愛され市民に貢献する」を企業理念に掲げ、堅実なモノづくりの会社としてこれまでも評価を得てきました。昨年度の「環境社会報告書2004」では、製品の品質を保持しつつ、生産と製品の両面から環境負荷をいかに押さえ込むかを各段階で検討しており、目標を数値化して見直しと修正を実施しています。各情報も問題点を指摘して透明性を担保しています。また「使いやすさの10原則」は利用者にとって何よりのメッセージでした。

今回の「CRS報告書」はさらに歩を進めて、企業理念と行動憲章をグループの隅々まで浸透させ、エコ・ドライブ電波時計に代表される「シチズン環境社会ビジョン(2025)」に沿った良質なモノづくりを推進し、良好なチームワーク、風通しの良い社風、チャレンジ精神の育成とトータルにCSRに取り組む意気込みが感じられます。各部門でのプランとチェック、現場で議論し理解を広げるコンプライアンスなどの諸活動も精力的に進めており、その「信頼」への揺るぎない決意に注目しております。

15年に亘り「市民社会の発展や幸せ・魅力づくりに貢献した」無名の市民を発掘し、表彰することで、多くの人々に感動を与えている「シチズン・オブ・ザ・イヤー」も、常に市民を大切に、温かい目線を注ぎ続けているシチズングループの姿勢を象徴するものといえるでしょう。



## 高 巖

麗澤大学  
国際経済学部 教授

本報告書を読み、社名「シチズン」が示唆するように、貴社が「企業市民としての責任をしっかりと意識しながら経営を行ってきた」との印象を強くしました。また、それは過去の活動や実績(環境に優しい時計の開発など)に裏打ちされたものであるとの理解も得ました。

確かにこれまで、貴社は、自らの活動をCSRという言葉で整理することはほとんどなかったでしょう。むしろ、陰徳という形で地道に取り組んできた、というのが事実ではないでしょうか。とは言え、事業活動のグローバル化に伴い、貴社を取り巻くステークホルダーが多様化し、彼らの持つ価値観や意識も大きく変わっているはずで、それゆえ「語らずして、我が社を知ってもらおう」というのは、すでに過去の話となっているはずで、

その意味で、今回、貴社が企業市民としての活動を包括的に整理し、CSR報告書を発行したことは実に重要な意味を持つと思います。しかも、ポジティブ情報のみならず、土壌汚染や洗浄処理、地域住民の振動に対する苦情と対応、下請法関連の警告と事後対応などのネガティブ情報まで、積極的に開示したという点において、本報告書が他社に与える影響も非常に大きいと感じています。

ただ「単なるレポートではなく、理解される報告書を」という梅原社長の言葉を借りて改善点を指摘するとすれば、それは社会対応に関する報告形式にあると考えられます。すでに環境面に関する報告では、取り組みを流れの中で整理していますが、残念ながら、社会面についてはそうした工夫が見られません。来年度以降の作業の中で改善を検討して戴ければ幸いです。

最後になりましたが、貴社の取り組みがより多くの消費者や市民に理解・共感されることを心より願っております。

# あゆみ

● 事業経営のあゆみ ● 商品技術開発のあゆみ ● 地域社会とのあゆみ ● 環境活動のあゆみ

1918 3	● シチズン時計の前身、尚工舎時計研究所創立	1992 5	● 「アメリカズカップ」の公式計時開始
1924 12	● 懐中時計第1号完成	1993 5	● 世界初多局受信型「電波時計」発売
1930 5	● シチズン時計株式会社創立	1993 7	● 特定フロン全廃
1931 6	● 腕時計第1号完成	1993 11	● 1.1.1-トリクロロエタン全廃
1936 5	● 田無工場新設	1995 5	● 10年間無償保証・生涯修理対応ウオッチ「ザ・シチズン」発売
1949 6	● シチズン商事株式会社発足	1995 11	● 光発電機能搭載ウオッチ「エコ・ドライブ」発売
1956 4	● 国産初の耐震装置「パラショック」発売、投下実験開始	1996 4	● 光発電機能搭載ウオッチ「エコ・ドライブ」で初めて「エコマーク」取得
1959 7	● 国産初の完全防水ウオッチ「パラウォーター」発売	1997 9	● 有害化学物質管理委員会発足<東京事業所>
1960 12	● 国産初の視覚障害者向け腕時計「シチズンシャイン」発売、発売を記念して名古屋盲学校へ寄贈	1998 10	● 世界最小最軽量のPCカード型PDA「データスリム」発売
1963 6	● 「パラウォーター」太平洋横断テスト	1998 12	● 環境方針の発行
1964 8	● 技術研究所設立	1998 12	● 世界初の光発電&自動巻発電ウオッチ「プロマスター エコ・ドライブ デュオ」発売
1966 3	● 国産初の電子ウオッチ「エクスエイト」発売	1999 8	● ISO14001認証取得
1970 12	● CNC自動旋盤「シンコム」開発	1999 9	● 環境管理室設置
1971 6	● 精機事業部発足	1999 10	● 環境管理委員会及び分科会（省エネ、省資源、産業廃棄物、有害化学物質）発足
1973 8	● 水晶ウオッチ「シチズンクォーツ」発売	2000 5	● 名刺サイズのカード型PDA「データスリム2」発売
1974 11	● 東京 新宿にジャンボデジタル時計塔設置	2000 7	● お客様時計相談室開設
1976 3	● 水晶振動子の製造開始	2000 11	● 本物志向の本格高級ウオッチ「カンパノラコレクション」発売
1976 8	● 世界初のアナログ式太陽電池ウオッチ「ソーラーセル」発売	2000 12	● 「環境報告書2000」発行
1978 5	● 世界で初めてムーブメントの厚さが1mmの壁を破ったクォーツウオッチ「エクシードゴールド」開発	2001 3	● 西東京市に本社を移転
1978 11	● 国産初のコンビネーションウオッチ「デジアナ」発売	2001 4	● ユニバーサルデザインウオッチ「MU(ミュー)」発売
1980 2	● 「青梅マラソン」公式計時協力	2001 5	● シチズングループ環境管理事務局会議及び分科会（エネルギー、廃棄物、有害物質）発足
1982 8	● 1,300m防水「プロフェッショナルダイバー」発売	2002 4	● 鉛フリー委員会発足
1982 10	● 電子部品挿入装置「ボードベッカー」発売	2002 12	● マラソン・駅伝でICチップ自動計測を導入
1983 3	● チップLED発売	2003 4	● 環境配慮型製品分科会、グリーン調達分科会発足
1983 4	● 薬品管理委員会発足<所沢事業所>	2003 6	● 世界初アンテナ内蔵型フルメタルケース電波時計発売
1983 5	● 電子体温計発売	2003 9	● CSR委員会、CSR推進委員会発足
1984 6	● 世界初の1インチ厚3.5インチFDD発売	2004 1	● シチズン企業行動憲章施行
1986 4	● スイス・バーゼル市で開かれる世界最大の時計宝飾見本市「バーゼルフェア」に出展開始	2004 6	● 世界最薄の電波時計開発
1986 12	● 腕時計(ムーブメント換算)年間生産量世界一となる	2004 7	● CSR室設置
1987 1	● 公害防止管理者委員会発足<東京事業所>	2004 10	● シチズン商事を吸収合併
1987 6	● チタンウオッチ「アテッサ」発売	2005 3	● 愛知万博の国連館に協賛
1990 1	● 市民顕彰制度「シチズン・オブ・ザ・イヤール」創設	2005 4	● 国連グローバル・コンパクトに参加
1991 12	● 環境保全委員会及び分科会（廃棄物、省エネ省資源、意識高揚、塩ビ）発足<東京事業所>		
1992 2	● ドイツ工作機械メーカーボーライ社買収		

## 編集後記

CSRの取り組みを2003年にスタートし、このたび多数の関係各位の暖かいご協力を得まして「CSR報告書」を発行することが出来たことは大変感慨深いものがあります。また、五代様、高様には、大変貴重なご意見を戴き有難うございました。

シチズンは私達の企業風土さながらに地道にCSRの活動に取り組んでまいりました。それは、「良質な会社」をめざし、コンプライアンス意識を高めると共に、環境保全、地域社会との共生といった分野へと次第にその根をおろそうとしております。まだまだ不十分な取り組みではありますが、この報告書を通して少しでもシチズンの企業風土を感じ取っていただければ幸いです。

## シチズン時計株式会社

### ■お問い合わせ先

シチズン時計株式会社 CSR室

〒188-8511

東京都西東京市田無町6-1-12

TEL 0424-68-4776

FAX 0424-68-4775

シチズン ホームページ

<http://www.citizen.co.jp/>

英文Web版CSR報告書

<http://www.citizen.co.jp/english/csr/>

2005年10月1日発行

次回発行予定 2006年6月



CSR報告書の御請求は…

URL <http://www.ecohotline.com>



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



この報告書はエコマーク認定の再生紙・古紙の利用100%（白色度82%）の再生紙OKコートグリーン100を使用しています。また印刷には、現像剤を使う製版フィルムが不用で環境負荷低減につながるCTP印刷を採用しています。さらに、生分解性や脱墨性に優れ、印刷物のリサイクルが容易な大豆インキを使用しています。